

第 2 回巴川水系流域委員会



令和8年9月2日

静岡土木事務所

目 次

(1) 第1回流域委員会について	・ ・ ・ ・ ・	p3
(2) 近年の出水について	・ ・ ・ ・ ・	p15
(3) 河川整備計画の変更について	・ ・ ・ ・ ・	p24
河川整備計画変更原案	・ ・ ・ ・ ・	別紙
(4) 今後のスケジュール	・ ・ ・ ・ ・	p46



(1) 第1回流域委員会について

第1回流域委員会での主な意見と対応



No	意見の分類		頂いたご意見の概要	当日の回答内容 ⇒対応方針	当日説明資料		原案 記載箇所
					ページ	見出し	
1	河川環境	貴重種名	・中下流部の貴重な生物種の名前について、最近では分類が進んでチワラスボ属の1種Cではなく、コガネチワラスボとするのが適当。	・名前を再度確認した上で修正する。 ⇒チワラスボ属の1種Cをコガネチワラスボに修正した	P16	(1)流域と河川の概要 自然環境	比較表 P89
		鳥類	・巴川水系でオオルリはあまり見られない。	・鳥の記載を含めて相談する。 ⇒オオルリに替えてセキレイ類、カワセミを追加した	P16	(1)流域と河川の概要 自然環境	比較表 P84
		自然学習	・生物調査は方法が明確で、事後調査が可能なものが望まれる。自然学習が適当ではないか。	・学習目的を確認した上で、必要に応じて表記を修正する。 ⇒生物調査を環境学習に修正した。	P17	(1)流域と河川の概要 河川利用	比較表 P144
		順応的管理	・河川改修に当たって「水生生物の生息・生息環境の保全・創出に配慮する」について、保全・創出の目的を明確にし、モニタリング調査を実施するなど、いわゆる順応的管理により見直していくことが必要。	・工事後の管理状況や、調査実績などを踏まえて、記載内容を検討する。 ⇒追記すべき箇所・文言を検討し修正した。	P32他	(5)現在の整備状況 工事の内容（河川）	比較表 P120、 P125
		生息域の保全・再生	・千歳橋右岸にあったヨシ群落はハゼなどの下流域の生物の貴重な生息域であった。橋の架け替え事業とともに再生についても考えていただきたい。	・中流域を含めたヨシ群落などの貴重な生息域の保全・再生について相談する。 ⇒追記すべき箇所・文言を検討し修正した。	P36	(5)現在の整備状況 治水施設の整備状況	比較表 P88
		その他	・本資料に鳥類の記載がない。自然環境のページをもう少し増やすべき。	・鳥の記載を含めて相談する。 ⇒追記すべき箇所・文言を検討し修正した。	—	(1)流域と河川の概要 自然環境	比較表 P30

第1回流域委員会での主な意見と対応



No	意見の分類		頂いたご意見の概要	当日の回答内容 ⇒対応方針	説明資料		原案 記載箇所
					ページ	見出し	
2	治水対策 (流域治水)	住まいの工夫	・浸水被害の軽減のため床のかさ上げなどに対する指導や補助金はあるのか。	・静岡県では今のところ補助金はない。ハザードマップに想定される浸水深を公開している。 ・静岡市には雨水タンクの設置費に対して補助金がある。	－	－	－
		内水対策	・内水被害が想定されるためポンプ場の整備の実績、計画はあるか。	・静岡市の内水排除計画により実際にポンプ場を設置している。 ・受け入れ先の巴川水位と連携しながら運転し被害の最小化を図っている。	－	－	－
		細かい工夫の積み重ね	・各地域で実施されている細かい工夫の洗い出しが必要でないか。 ・たとえば貯水タンクの普及率や、小学校の環境学習の実態数、透水性アスファルトの数値目標や各家庭での地覆率設定など。 ・幅広い住民が参加し、知恵を出し合って水害対策の仕組み作りができるか。	・総合治水対策協議会のなかで引き続き議論し、できることはやっていく。	－	－	－
		自治体連携	・県と市がタイアップしていかないとうまくいかない。	・静岡土木事務所に設置されている巴川情報システムには県SIPOS-RADARで表示していない水位計があり、静岡市でも県の巴川情報システムと同じものが見れるよう連携している。	－	－	－
		新規開発	・麻機遊水地第一工区に隣接する調整区域内の民間新規開発の認可について。 ・昔からの湿地に大型ダンプが行き来しても問題はないのか。	・流出増とならないように審査をしている。 ・皆で一生懸命水をためていただいているという努力の中で治水が成り立っているため、しっかり指導していく。 ・具体的な指導内容や意見を確認し回答する。	－	－	－

第1回流域委員会での主な意見と対応



No	意見の分類		頂いたご意見の概要	当日の回答内容 ⇒対応方針	説明資料		原案 記載箇所
					ページ	見出し	
3	利水	水利用	・ 渇水時に大谷川放水路に少しの間だけ水を貯めて再利用したらできないか。	・ 令和4年台風15号の時は満杯で流れた区間もある。 ・ 河口付近では普段水を止めることはできるのではないか。 ・ 大谷川放水路沿川の住民は麻機遊水池の完成を見込んで放水路の通水を了解した経緯があり、まずは麻機遊水池の完成を目指すことが重要。	－	－	－

No	意見の分類		頂いたご意見の概要	当日の回答内容 ⇒対応方針	説明資料		原案 記載箇所
					ページ	見出し	
4	維持管理	瀬切れ対策	・ 長尾川など土砂流入により近年瀬切れが頻繁に見受けられ、生物相が貧弱になってきている。	・ 堆積土砂の撤去は非常に重要であり、数年に一度掘削を実施している。昔ながらの多自然かわづくりを意識しながら、できることをやっていく。	－	－	－

No	意見の分類		頂いたご意見の概要	当日の回答内容 ⇒対応方針	説明資料		原案 記載箇所
					ページ	見出し	
5	河川と地域との関わり	その他	・ 巴川のための治水対策だけでは対応できない認識を市民が共有する仕組みづくりを行い組織的な対応が重要。 ・ 大規模構造物は都市景観との調和が求められる。	・ 次回、河川景観等の保全・創出のあり方を含めて整備計画原案を示すので、再度ご意見をいただきたい。	－	－	比較表 P138、 P142 P112、 P128

No	意見の分類		頂いたご意見の概要	当日の回答内容 ⇒対応方針	説明資料		原案 記載箇所
					ページ	見出し	
6	今後の手続きについて	河川整備基本方針	・ 降雨量の増加による治水対策は、流域委員会だけの議論ではなく、基本方針を先に議論した方が適当ではないか。 ・ 大規模構造物は都市景観との調和が求められる。	・ 今回の整備計画改定は現行基本方針の段階整備に位置付けている。 ・ いずれ気候変動を考慮した基本方針に改定していく。	－	－	－

第1回流域委員会での意見と対応（1）



【意見（河川環境：貴重種名）】

- ・中下流部の貴重な生物種の名前について、最近は分類が進んでチワラスボ属の1種Cではなく、コガネチワラスボとするのが適当。

【対応】

- ・日本産「チワラスボ」に複数の種が含まれることが判明しチワラスボ属の1種Cと暫定呼称が用いられていた。現在は同定され標準和名「コガネチワラスボ」が提唱されているため、名称を変更する。（比較表P89）

【意見（河川環境：鳥類）】

- ・巴川水系でオオルリはあまり見られない。

【対応】

- ・専門家のご意見に基づき、変更原案にセキレイ類とカワセミを追加した。（出典:巴川水系河川環境検討シート「河川整備基本方針の河川環境の整備と保全に関する検討シート」平成20年9月静岡県）（比較表P84）

巴川水系河川整備計画（令和3年4月 変更）	巴川水系河川整備計画（変更原案）
となり、瀬や淵などに加えて河床が礫などで構成されている。流れの速い場所に多いオオヨシノボリ、砂礫底などに産卵するタカハヤなどの魚類、谷沿いの林に生息するオオルリなどの鳥類が見られる。山地河川の岩の間に生育するセキショウ、流れの速い水際に生育するツルヨシなどの植物が見られる。「まもりたい静岡県の野生生物2019」（以下：静岡県RDB2019）において絶滅危惧種に位置づけられている魚類は確認されていない。瀬・淵の河川形態が魚類の産卵場や餌場などとして機能することから、それらの保全が重要である。	となり、瀬や淵などに加えて河床が礫などで構成されている。流れの速い場所に多いオオヨシノボリ、砂礫底などに産卵するタカハヤなどの魚類、セキレイ類や谷沿いの林に生息するオオルリカワセミなどの鳥類が見られる。山地河川の岩の間に生育するセキショウ、流れの速い水際に生育するツルヨシなどの植物が見られる。「まもりたい静岡県の野生生物2019」（以下：静岡県RDB2019）において絶滅危惧種に位置づけられている魚類は確認されていない。瀬・淵の河川形態が魚類の産卵場や餌場などとして機能することから、それらの保全が重要である。

第1回流域委員会での意見と対応（2）



【意見（河川環境：鳥類）】

- ・本資料に鳥類の記載がない。自然環境のページをもう少し増やすべき。

【対応】

- ・専門家のご意見に基づき、変更原案に追記する。（比較表P30など）

巴川水系河川整備計画（令和3年4月 変更）	巴川水系河川整備計画（変更原案）
文珠岳から流れ出た巴川は平野部で勾配が緩やかになり、環境省による「日本の重要湿地500」に選定された麻機遊水地が広がっている。麻機遊水地周辺は、かつては浅畑沼をはじめ大沼、小沼など大小の沼池が存在していた低湿地であったが、昭和30年代後半より水田への土地利用の転換が図られ、その後、洪水調節機能を有する遊水地として整備した。ここには、ヨシ・マコモ・ガマ類などの抽水植物群落が繁茂し、ミズアオイ、タコノアシなどの希少な植物を含む多種の湿生植物や、カワセミヤバン、カイツブリ、サギ類をはじめとして季節ごとに多くの野鳥等がみられ、カヤネズミなどの動物やチョウやトンボ等の昆虫など多数の動植物が生育・生息する多様な環境が蘇った。	文珠岳から流れ出た巴川は平野部で勾配が緩やかになり、環境省による「日本の重要湿地500」に選定された麻機遊水地が広がっている。麻機遊水地周辺は、かつては浅畑沼をはじめ大沼、小沼など大小の沼池が存在していた低湿地であったが、昭和30年代後半より水田への土地利用の転換が図られ、その後、洪水調節機能を有する遊水地として整備した。ここには、ヨシ・マコモ・ガマ類などの抽水植物群落が繁茂し、ミズアオイ、タコノアシなどの希少な植物を含む多種の湿生植物がみられる。年中見られる代表的な野鳥として、サギ類、ケリ、カイツブリ、オオバン、カワセミなどの水鳥やヒタキ類、ツグミ類、シギ類、カモ類など静岡県内で確認された約400種のうちの半分以上が確認されている。 や、カワセミヤバン、カイツブリ、サギ類をはじめとして季節ごとに多くの野鳥等がみられ カヤネズミなどの動物やチョウやトンボ、甲虫等の昆虫など多数の動植物が生育・生息する多様な環境が蘇った。

第1回流域委員会での意見と対応（3）



【意見（河川環境：生息域の保全・再生）】

・千歳橋右岸にあったヨシ群落はハゼなどの下流域の生物の貴重な生息域であった。橋の架け替え事業とともに再生についても考えていただきたい。

【対応】

・千歳橋上流右岸にはかつて、ヨシ原群落があったが現在は消失している。※現行整備計画ではその重要性について記述
・今後は、当箇所以外にも存する貴重な干潟に配慮し、専門家の意見を踏まえて必要な対策を実施する。（比較表P88、P89、P111、P120、P132、P133）



第1回流域委員会での意見と対応（４）



巴川水系河川整備計画（令和３年４月 変更）	巴川水系河川整備計画（変更原案）
また下流部は、コンクリートや鋼矢板を用いた護岸が整備されているため水面が広がり植物は少ないが、千歳橋上流右岸にはヨシ群落がみられ、水際の植生を好む生物の生育環境が形成されている。またヨシ群落はその下流に干潟のような水深の浅い、多様な生態系が育まれる良好な環境を形成する。	また下流部は、コンクリートや鋼矢板を用いた護岸が整備されているため水面が広がり植物は少ないが、かつては千歳橋上流右岸にはヨシ群落がみられ、水際の植生を好む生物の生育環境が形成されていた。またヨシ群落はその下流に干潟のような水深の浅い、多様な生態系が育まれる良好な環境を形成する。
巴川水系河川整備計画（令和３年４月 変更）	巴川水系河川整備計画（変更原案）
また、治水上の支障となる堆積土砂の排除や河道内植生の除去にあたっては、地域住民や学識者などとの連携により、瀬や淵、河床の浮き石など動植物の生育・生息環境に配慮する。 河川区域内の高木等の植樹については、管理者を明確にし、洪水の阻害や堤防の弱体化に繋がらないよう河川巡視を通じて注視し、地域住民や学識者などとの連携により伐採など必要に応じた対策を適切に行う。 動植物の生息環境の保持、改善のため、河道内の植物や植林の伐採にあたっては必要な調査を実施し、動植物の生息空間の多様性と連続性の保全及び復元に配慮し、瀬や淵の保全、河床の多様性の確保、創出に努める。	また、治水上の支障となる堆積土砂の排除や河道内植生の除去にあたっては、地域住民や学識者などとの連携により、瀬や淵、干潟環境、河床の浮き石など動植物の生育・生息環境に配慮する。 河川区域内の高木等の植樹については、管理者を明確にし、洪水の阻害や堤防の弱体化に繋がらないよう河川巡視を通じて注視し、地域住民や学識者などとの連携により伐採など必要に応じた対策を適切に行う。 動植物の生息環境の保持、改善のため、河道内の植物や植林の伐採にあたっては必要な調査を実施し、動植物の生息空間の多様性と連続性の保全及び復元に配慮し、瀬や淵、干潟環境の保全、河床の多様性の確保、創出に努める。

第1回流域委員会での意見と対応（5）



【意見（河川環境：順応的管理）】

- ・河川改修に当たって「水生生物の生息環境の保全・創出に配慮する」ことについて、保全・創出の目的を明確にし、モニタリング調査を実施するなど、いわゆる順応的管理により見直していくことが必要。

【対応】

- ・ご指摘の通り。事業実施後に必要に応じて保全対策等を見直すなど、順応的な管理に努める一文を追記。（比較表P120、P125）

巴川水系河川整備計画（令和3年4月 変更）	巴川水系河川整備計画（変更原案）
c 工事の内容 巴川本川の下流区間では、掘削等の河川改修を行う。河川改修にあたっては、既設構造物への影響が最小限となる形状とするとともに、干潟の保全等、水生生物の生息・生育・繁殖環境の保全・創出に配慮する。	c 工事の内容 巴川本川の下流区間では、掘削等の河川改修を行う。河川改修にあたっては、既設構造物への影響が最小限となる形状とするとともに、干潟の保全等、水生生物の生息・生育・繁殖環境の保全・創出に配慮する。 また、事業実施後においても環境の状況を継続的に把握した上で、必要に応じて保全対策等を見直すなど、順応的な管理に努める。

【意見（河川環境：自然学習）】

- ・生物調査は方法が明確で、事後調査が可能なものが望まれる。自然学習が適当ではないか。

【対応】

- ・ご指摘の通り。住民の協力による生物調査は生物の環境学習に修正する。（比較表P144）

巴川水系河川整備計画（令和3年4月 変更）	巴川水系河川整備計画（変更原案）
住民の協力による水質や生物調査の実施など、継続的に住民が河川環境の保全に高い関心を持ち、良好な環境保全に積極的に関わる仕組みづくりに努める。また、市民団体や地域住民による主体的な河川愛護に関わる活動や河川上下流の連携に関わるネットワークの形成を支援する。流域の連携を含めて、市民が市民に働きかける仕組みづくりと流域が一体となった継続的な河川環境の向上に関わる取組の推進を図る。	住民の協力による水質や生物の環境学習調査の実施など、継続的に住民が河川環境の保全に高い関心を持ち、良好な環境保全に積極的に関わる仕組みづくりに努める。また、市民団体や地域住民による主体的な河川愛護に関わる活動や河川上下流の連携に関わるネットワークの形成を支援する。流域の連携を含めて、市民が市民に働きかける仕組みづくりと流域が一体となった継続的な河川環境の向上に関わる取組の推進を図る。

第1回流域委員会での意見と対応（6）



【意見（河川と地域とのかかわり：その他）】

- ・ 巴川のための治水対策だけでは対応できない認識を市民が共有する仕組みづくりを行い組織的な対応が重要。

【対応】

- ・ ご指摘の通り。ただし、現行河川整備計画において記載箇所は次の通り。

4.河川整備の実施に関する事項

(3)その他河川の整備を総合的に行うために必要な事項

(ア) 流域対策・流域連携の推進P138など

(4)流域との連携、流域における取り組みへの支援に関する事項

(イ) 地域住民との連携、地域活動への支援P142など

「巴川流域総合治水対策協議会」等において、市民を巻き込んだ組織的な対応について引き続き検討していく。整備計画は現行の文面とする（比較表P138、P142）。

巴川水系河川整備計画（令和3年4月 変更）	巴川水系河川整備計画（変更原案）
(ア) 流域対策・流域連携の推進 巴川水系でより効果的な洪水対策を図るためには、ハード整備とソフト対策が一体となった取り組みによる減災体制の確立が不可欠である。流域の治水安全度向上策に関わるに施行者、官民の責任の明確化などにより総合的な治水対策の一層の推進を図る。 また、河川施設の整備の推進に加え、雨水流出抑制施設の機能の保持、森林・農地などの保水・遊水機能の保持、盛土規制、開発に伴う流出増対策など、巴川流域のこれまでの取り組みを踏まえ、静岡市による雨水貯留浸透施設の設置助成制度の普及に協力するとともに、防災調整池の存置など既往の流域対策による効果の保持に努めるよう働きかける。そのため、流域に関わる治水上の課題を的確に認識して、県・市の河川、下水道、砂防、防災、道路、都市計画、公園、農地・森林などの関係部局により構成される「巴川流域総合治水対策協議会」の役割を適正に捉え、体制強化や所掌事務の拡大を常に考慮し、関係部局のより一層の連携を図りながら、直面する課題の解決に向けて効果的、効率的な取り組みを展開していく。	(ア) 流域対策・流域連携の推進 巴川水系でより効果的な洪水対策を図るためには、ハード整備とソフト対策が一体となった取り組みによる減災体制の確立が不可欠である。 巴川流域水害対策計画、巴川水系流域治水プロジェクト（巴川水災害対策プラン）との整合を図りながら、流域の治水安全度向上策に関わるに施行者、官民の責任の明確化などにより総合的な治水対策の一層の推進を図る。 また、河川施設の整備の推進に加え、雨水流出抑制施設の機能の保持、森林・農地などの保水・遊水機能の保持、盛土規制、開発に伴う流出増対策など、巴川流域のこれまでの取り組みを踏まえ、静岡市による雨水貯留浸透施設の設置助成制度の普及に協力するとともに、防災調整池の存置など既往の流域対策による効果の保持に努めるよう働きかける。そのため、流域に関わる治水上の課題を的確に認識して、県・市の河川、下水道、砂防、防災、道路、都市計画、公園、農地・森林などの関係部局により構成される「巴川流域総合治水対策協議会」の役割を適正に捉え、体制強化や所掌事務の拡大を常に考慮し、関係部局のより一層の連携を図りながら、直面する課題の解決に向けて効果的、効率的な取り組みを展開していく。

第1回流域委員会での意見と対応（7）



【意見（河川と地域とのかかわり：その他）】

- ・大規模構造物は都市景観との調和が求められる。

【対応】

- ・(6) 河川環境の整備と保全に関する目標で記載している景観に関する記載内容は以下の通りであり、目標は変更しない。（比較表P112）
- ・大規模構造物である津波対策水門(巴川河口)の工事の内容に、すでに具体的な配慮事項が追記されてる。（比較表P128）

巴川水系河川整備計画（令和3年4月 変更）	巴川水系河川整備計画（変更原案）
良好な景観の維持・形成については、景観行政団体である静岡市との連携により、現存する良好な河川景観の保持や川と調和した沿川のまちづくりに寄与するよう配慮する。特に、河口部に位置する清水港において、入港する客船の増加に伴い、多くの外国人観光客が静岡県を訪れる玄関口となっていることを踏まえ、日本三大美港である清水港の景観と調和した河川景観の形成を目指す。巴川水系の各河川は、時代の要請を受け河川周辺の土地利用状況と深い関わりをもって大小の改変が加えられてきた経緯を有する。このため、河川の機能や形態に応じて治水と環境の調和について考慮して、市民の身近な日常生活のなかの水辺空間として、その保全・創出によって適正な河川空間の利用を誘導するとともに、良好な河川景観の形成に努める。 巴川水系の各河川に形成される自然要素やそこで育まれた自然環境や住民に愛着のある景観は将来に継承すべき地域の貴重な財産であることから、豊かで潤いのある河川環境の保全と創造のため、四季の彩が豊かな水辺空間の保全・創出に努めるものとする。	良好な景観の維持・形成については、景観行政団体である静岡市との連携により、現存する良好な河川景観の保持や川と調和した沿川のまちづくりに寄与するよう配慮する。特に、河口部に位置する清水港において、入港する客船の増加に伴い、多くの外国人観光客が静岡県を訪れる玄関口となっていることを踏まえ、日本三大美港である清水港の景観と調和した河川景観の形成を目指す。巴川水系の各河川は、時代の要請を受け河川周辺の土地利用状況と深い関わりをもって大小の改変が加えられてきた経緯を有する。このため、河川の機能や形態に応じて治水と環境の調和について考慮して、市民の身近な日常生活のなかの水辺空間として、その保全・創出によって適正な河川空間の利用を誘導するとともに、良好な河川景観の形成に努める。 巴川水系の各河川に形成される自然要素やそこで育まれた自然環境や住民に愛着のある景観は将来に継承すべき地域の貴重な財産であることから、豊かで潤いのある河川環境の保全と創造のため、四季の彩が豊かな水辺空間の保全・創出に努めるものとする。

第1回流域委員会での意見と対応（8）



巴川水系河川整備計画（令和3年4月□変更）

b□工事の内容

河口部については、「計画津波」の遡上を考慮し、周辺の整備状況を踏まえて水門を新設する。

整備にあたっては、希少種の生息域などの自然環境に配慮するとともに、日本三大美港である清水港の景観との調和に努める。水門形式については、最新の知見を踏まえて検討を行う。

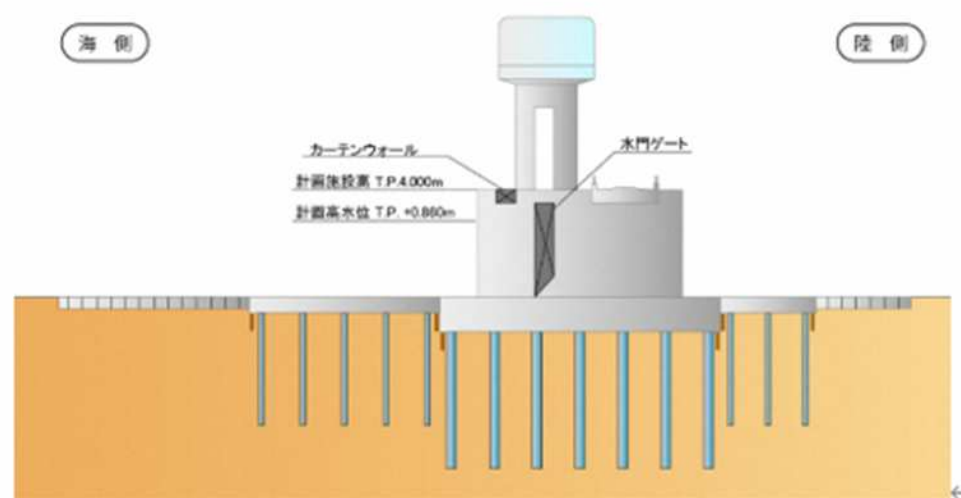


図-4-17□津波対策水門イメージ図（側面図）

巴川水系河川整備計画（変更原案）

b□工事の内容

河口部については、「計画津波」の遡上を考慮し、周辺の整備状況を踏まえて水門を新設する。

整備にあたっては、希少種の生息域などの自然環境に配慮するとともに、日本三大美港である清水港の景観との調和に努める。水門形式については、最新の知見を踏まえて検討を行う。

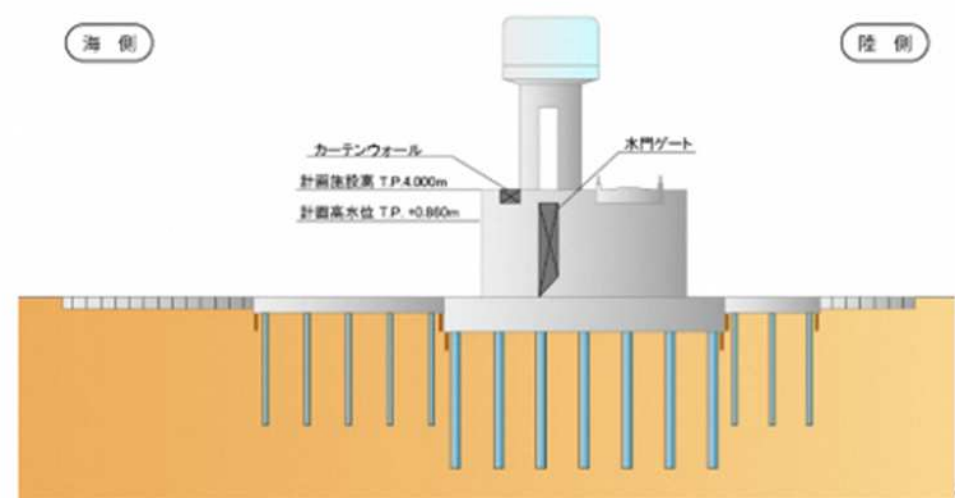


図-4-17□津波対策水門イメージ図（側面図）



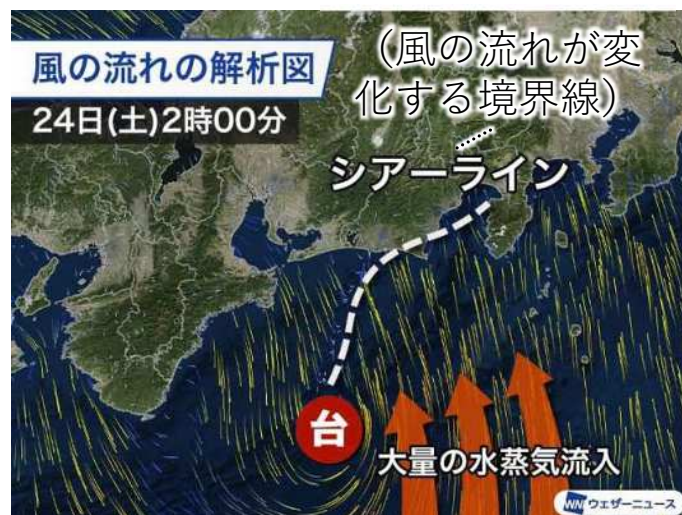
(2) 近年の出水について

① 令和4年台風第15号に伴う豪雨

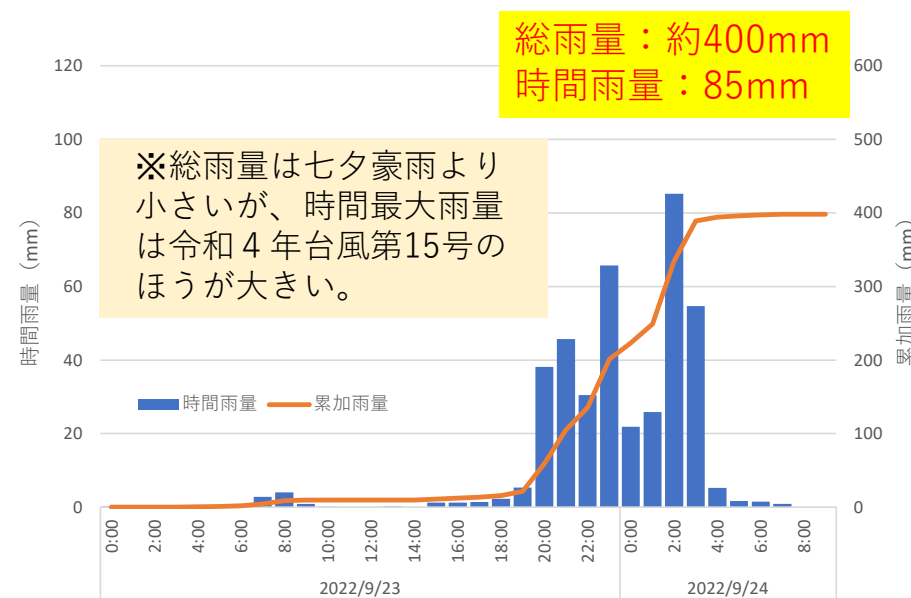


降雨概況・雨量の状況

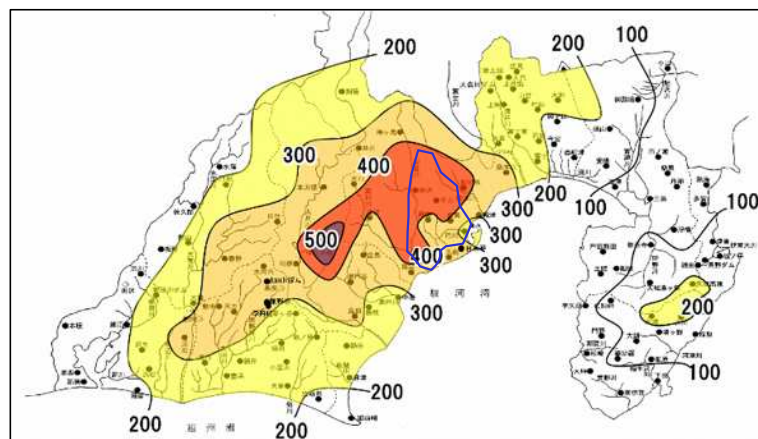
- ◆ 令和4年台風第15号に伴う豪雨は、七夕豪雨に匹敵する規模の雨であった。
- ◆ 巴川流域では総雨量約400mmの大雨がもたらされた。観測所によっては時間最大雨量107mmを観測された。
- ◆ 24時間雨量の確率規模は1/100を上回っており、現行河川整備計画の目標1/10よりも大きい。



台風15号の風の流れ
出典：R4.9.24 10:19 ウェザーニュース



巴川流域の平均雨量



等雨量線図 24時間最大雨量 (R4.9.23~24)

現行河川整備計画の目標雨量と台風第15号による降雨の比較

	1時間	3時間	24時間
現行の計画 (1/10)	68.7mm	135.9mm	271.2mm
令和4年9月 (台風第15号)	85.0mm (約1/32)	166.0mm (約1/26)	396.0mm (1/100以上)

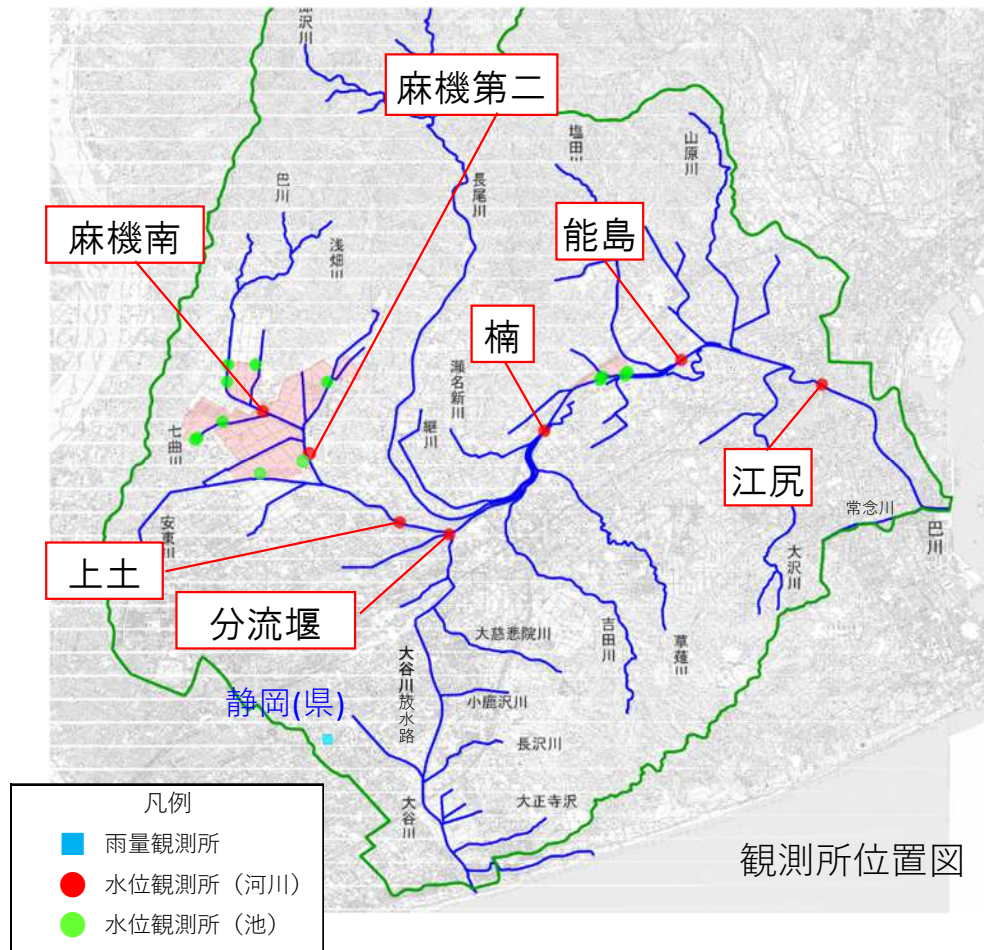
現行計画をはるかに上回る規模の豪雨が発生！

① 令和4年台風第15号に伴う豪雨

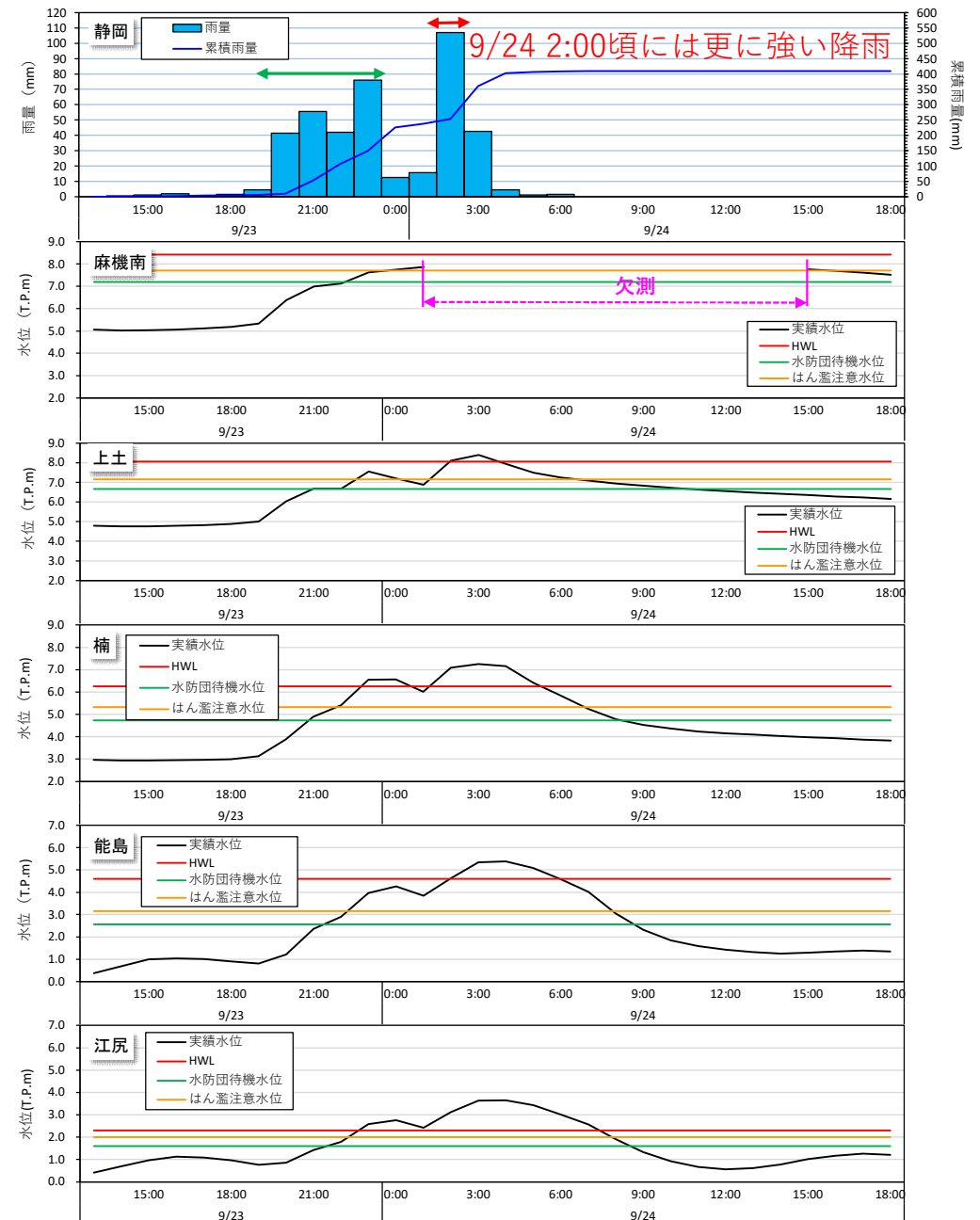


河川水位の状況

◆ 静岡観測所では9/23 20～23時の4時間で215mmもたらされた後に9/24 2時に107mmの豪雨となり、巴川では上土、楠、能島、江尻観測所で河川水位がH.W.L.を超過した。



9/23 20:00～23:00に降雨が集中 (4時間で215mm)



各地点で川の水位 (黒) がHWL (赤) を超過→非常に危険な状態

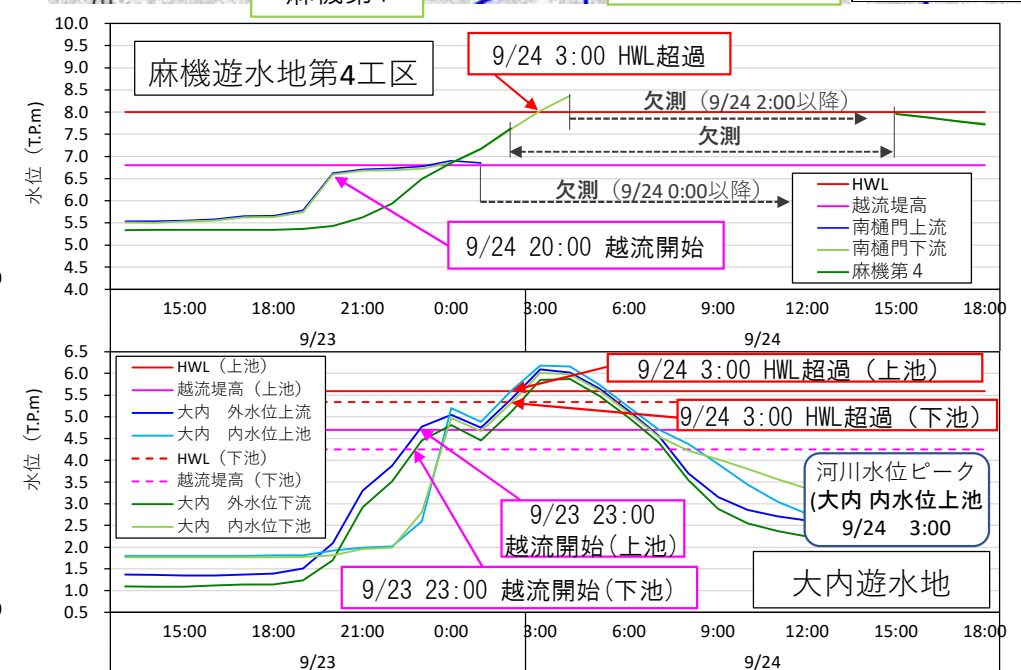
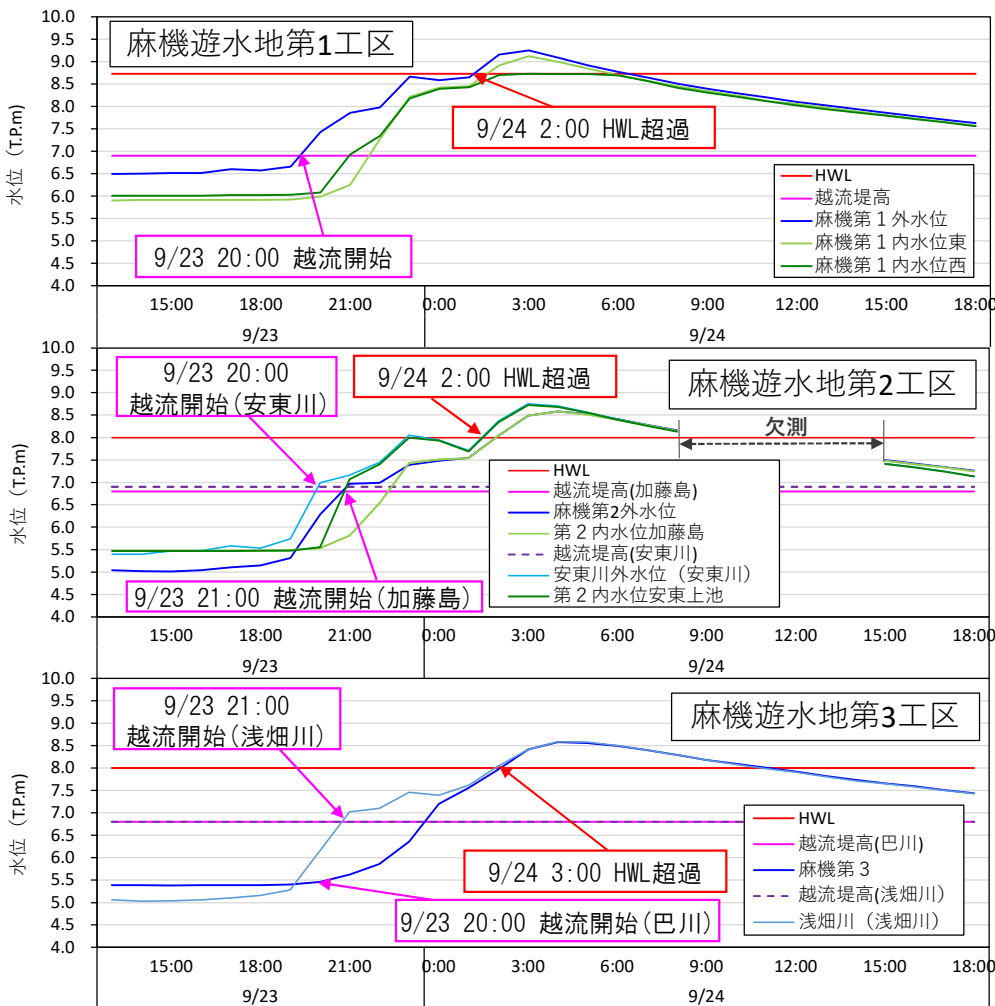
① 令和4年台風第15号に伴う豪雨



遊水地の状況

- ◆ 麻機遊水地第1工区～第3工区では、洪水初期（9/23 20：00頃）から水位が越流堤高よりも高くなり、遊水地に洪水が貯留されていた。
- ◆ 9月24日 0:00～3:00にかけて遊水地水位がさらに上昇し、すべての遊水地でH.W.Lを超過した。また、大内遊水地も9月24日3時ごろに遊水地のH.W.Lを超過している。

麻機・大内遊水地ではHWL以上（施設の限界）まで貯留

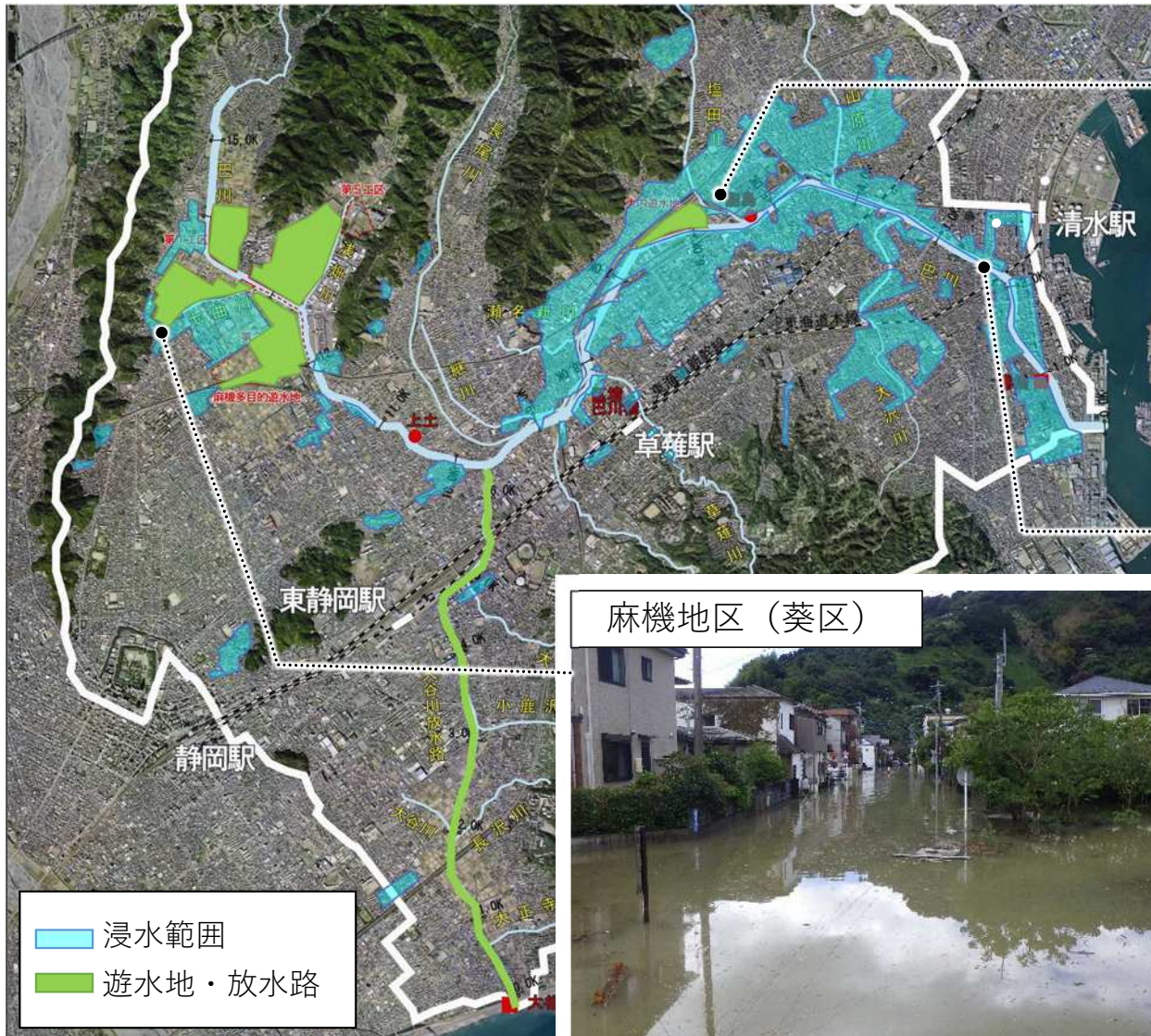


① 令和4年台風第15号に伴う豪雨



浸水の状況

- ◆ 令和4年9月の台風第15号の豪雨により、巴川沿川では大規模な浸水被害が発生した。
- ◆ 浸水被害は、床上浸水3,221棟、床下浸水1,617棟にも及んだ。



令和4年9月洪水の浸水範囲



写真：市民提供



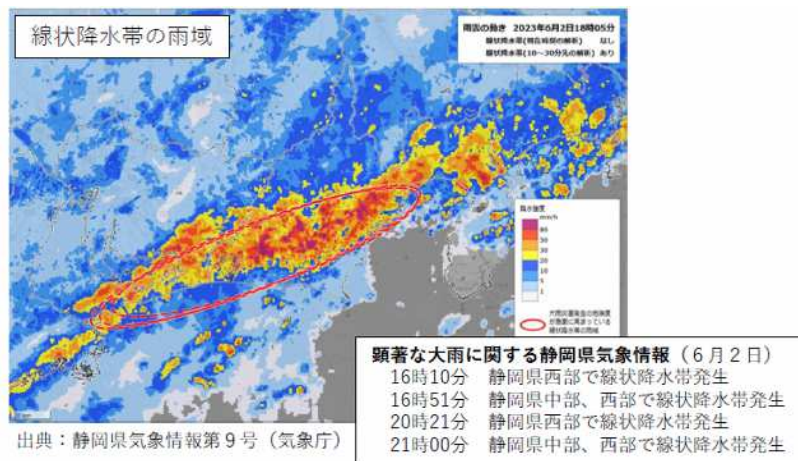
写真：市民提供

② 令和5年台風第2号に伴う豪雨

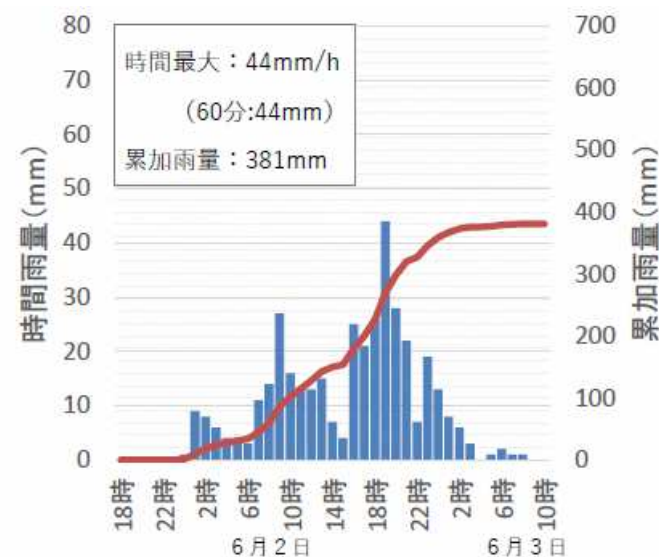


令和5年豪雨

- ◆ 令和5年台風第2号では、県中・西部で線状降水帯が断続的に発生し、大雨をもたらした。
- ◆ 能島雨量観測所では総雨量381mmが観測されたが、この雨量は年超過確立1/40に相当する
- ◆ 静岡市では床上浸水4棟、床下浸水4棟の浸水被害が発生した。



線状降水帯の発生状況



能島雨量観測所の降雨の時間変化



唐瀬地区(葵区)



鳥坂地区(清水区)

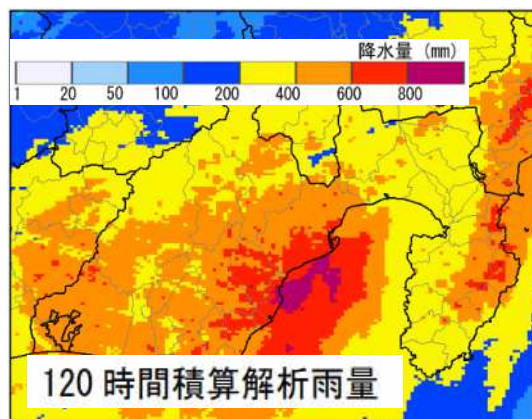
出典：
令和5年台風第2号の被害概要(静岡県)

③ 令和6年台風第10号に伴う豪雨

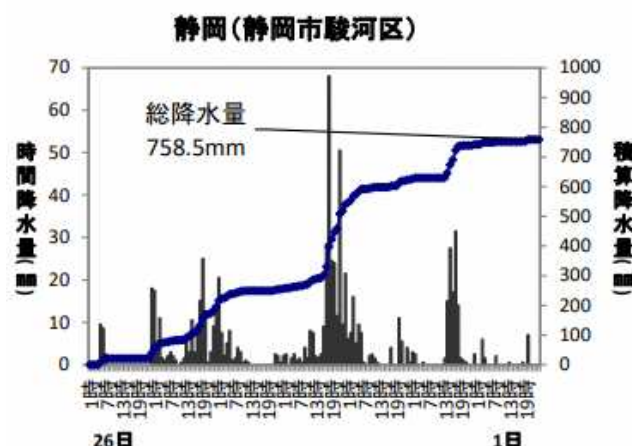


令和6年豪雨

- ◆ 令和6年台風第10号では、8月26日から9月1日までの総雨量が県内すべての地点で平年の8月の月降水量を超えた。特に、静岡観測所等では4倍以上となった。
- ◆ 静岡観測所では、8月降水量(1,017.0mm)、月最大72時間降水量(515.5mm)が統計開始以来の1位を更新し、静岡市では床上浸水4棟、床下浸水17棟の浸水被害が発生した。



(8月27日0時~8月31日24時)



出典：令和6年台風第10号に関する静岡県気象速報(静岡地方気象台R6.9.5)

市町	地点	更新した値		これまでの1位の値		統計開始年
		降水量 (mm)	起日時	降水量 (mm)	年月日	
熱海市	網代※	654.0	9月1日 10時50分	422	2003年 8月17日	1976年
藤枝市	高根山	500.0	8月30日 01時40分	499.0	2023年 6月4日	2009年
静岡市駿河区	静岡※	515.5	8月30日 05時40分	497	1982年 9月13日	1976年
浜松市浜名区	ニヶ日	432.0	8月29日	400.5	2023年	1976年

静岡観測所
8月平均降水量186.5mm (1991~2020)

鳥坂地区 (清水区)

銀座地区 (清水区)

唐瀬・岳美地区 (葵区)



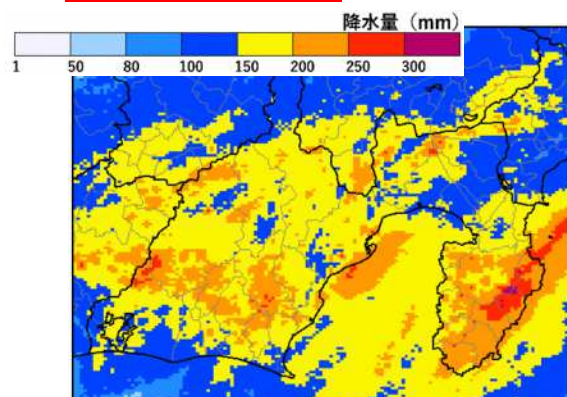
④ 令和7年台風第15号に伴う豪雨



令和7年豪雨

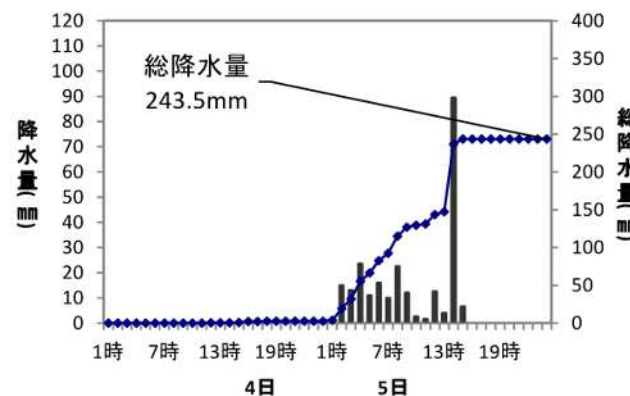
- ◆ 令和7年台風第15号の接近・通過に伴い、9月5日昼過ぎを中心に線状降水帯が発生し、非常に激しい雨となった。
- ◆ 清水雨量観測所では時間最大雨量93mm、静岡雨量観測所では時間最大雨量96mmが満潮の16時55分に向けて水位が上昇している14時頃に観測され、下流部では浸水被害を助長した。
- ◆ 時間最大雨量としては年超過確立1/50に相当するこの降雨により、静岡市では床上浸水10棟、床下浸水8棟の浸水被害が発生した。

清水・静岡雨量観測所の降雨の時間変化

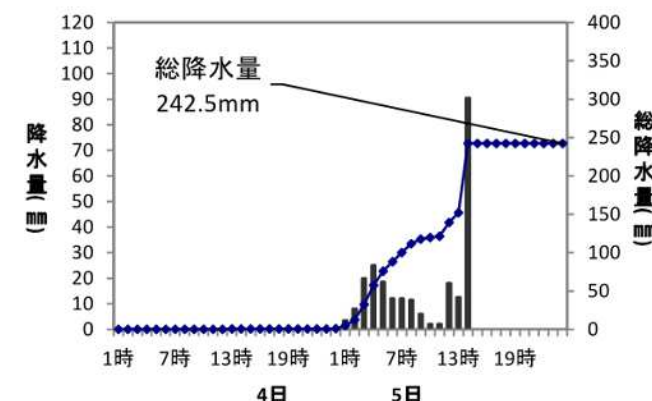


48時間積算解析雨量
(9月4日0時～5日24時)

清水(静岡県静岡市清水区)



静岡(静岡県静岡市駿河区)



北矢部町地区(常念川)(清水区)



JR草薙駅南口(清水区)



出典：
令和7年台風第15号の被害概要(静岡県)

写真：静岡市提供

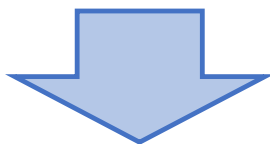


令和4年台風第15号を踏まえた対応方針

課題

巴川の更なる治水安全度の向上

- 現行の河川整備計画では、概ね10年に1回発生する降雨による洪水を目標としているが、令和4年台風第15号は現計画の計画規模を大きく上回るとともに、時間80mm（流域平均雨量）を越える短時間の豪雨をもたらした。
- 平成26年台風第18号は巴川北部に大雨がもたらされ巴川下流の水位上昇となったが、令和4年台風第15号は流域全体に豪雨がもたらされ巴川上流部も水位上昇となった。
- 現行の河川整備計画に従い河川整備（河道掘削・遊水地整備等）を進めているが、令和4年台風第15号に対しては流下能力が不足しており、巴川からの溢水氾濫が発生した。また、溢水氾濫しなかった区間においても水位はH.W.Lを超過した。
- 麻機遊水地・大内遊水地も二山洪水ピーク前には貯水位がH.W.Lを超えるなど、洪水調節機能は低下していた。



対応方針

令和4年台風第15号を考慮し、巴川本川の水位低下を図るため、現行計画の河道改修を着実に推進するとともに、更なる洪水調節機能を強化するなど、効果的な治水対策を河川整備計画に位置付ける。



(3) 巴川水系河川整備計画の変更について

河川名・遊水地名	整備区間等	面積・延長等	主な工種	現在の 実施状況
麻 機 遊水地	第1工区 巴川13.4～14.3k 第2工区 巴川12.0～13.1k	第1工区 22ha 第2工区 51ha	築堤 掘削 越流堤	第1工区完了 第2工区整備中 (R7末に供用開始)
巴川	0.0～6.6k (河口～矢崎川合流点)	6,600m	掘削 護岸工	整備中
大谷川 放水路	0.0～0.75k (河口～水上1号橋下流) 2.1～4.35k (片山1号橋上流～ 池田堰橋上流)	750m 2,250m	護床工	概成
大沢川	1.62～2.57k (JR東海道本線～船越橋)	950m	掘削 護岸工	検討中
雨水貯留 浸透施設	流域内の公共公益施設	約6万m3 (河川管理者)		整備中
津波対策 水門	巴川河口	－	水門設置	整備中
	大谷川放水路河口	－	水門改良 (嵩上)	整備中



河川整備計画策定時点からの事業進捗状況



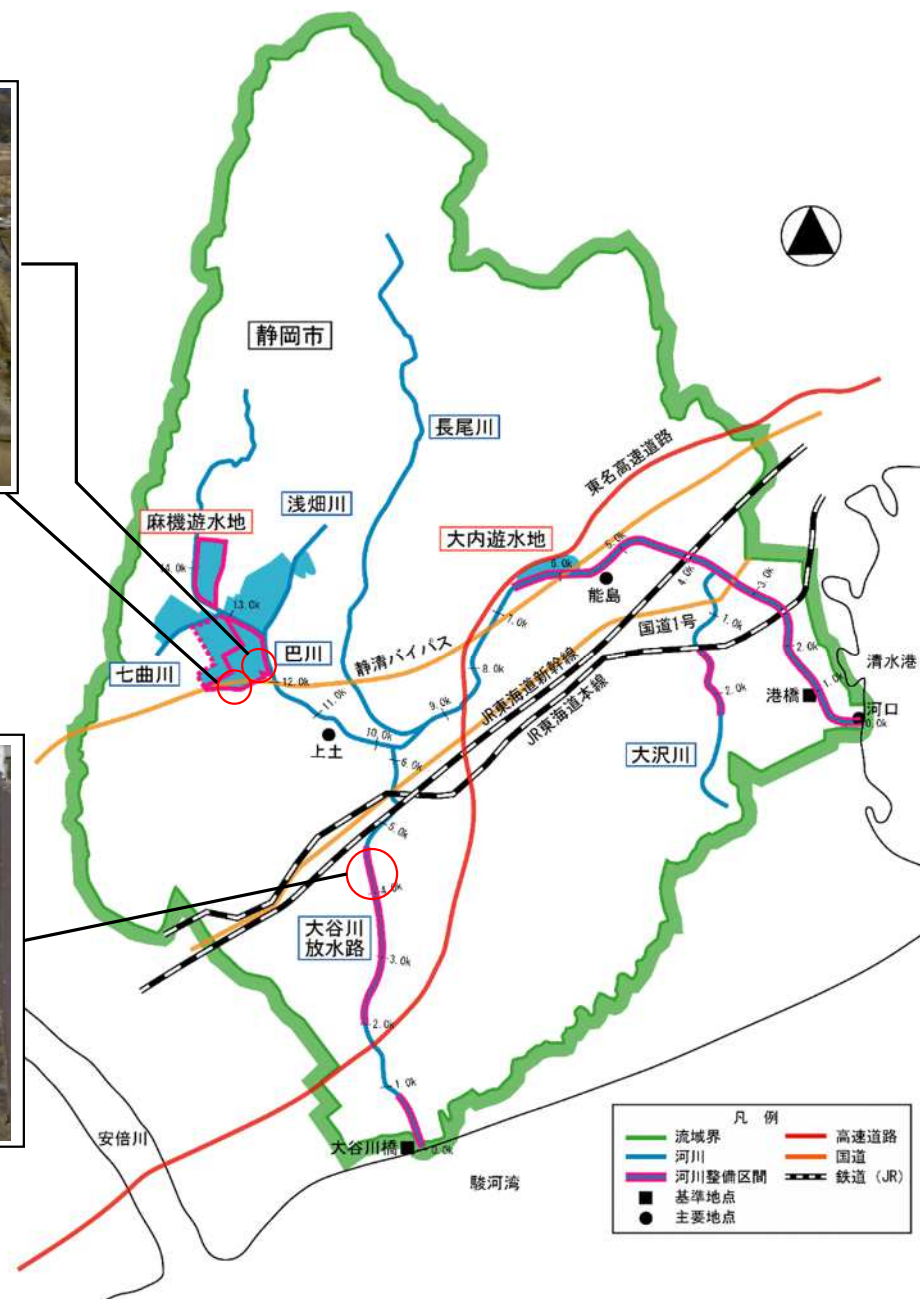
治水施設の整備状況



麻機遊水地の第2-1工区では、築堤・掘削工事が進み、これまでに3エリア（加藤島、安東川、立石）が完成している。残る豊地エリアについても、令和7年度末に供用開始した。



大谷川放水路では、一部区間を除き、護床工の設置が完了した。小鹿橋から田宮橋下流区間については、河床に巨石が露出しており護床工と同等の効果が見込めるものとし、当面は施工しない。



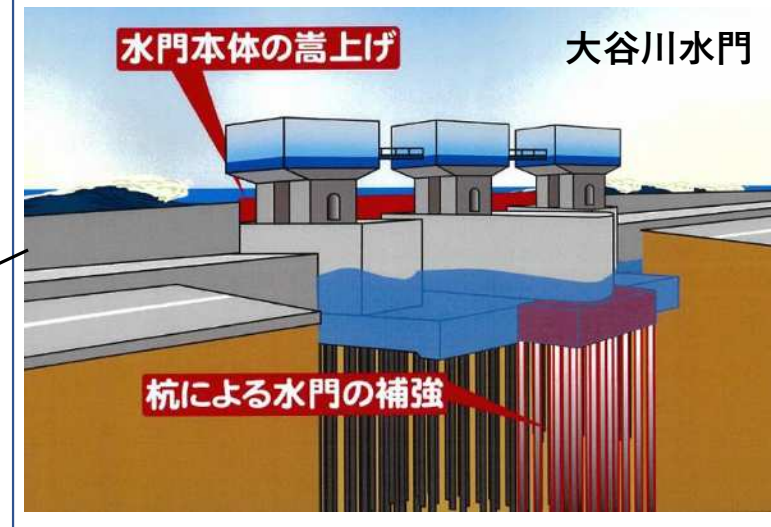
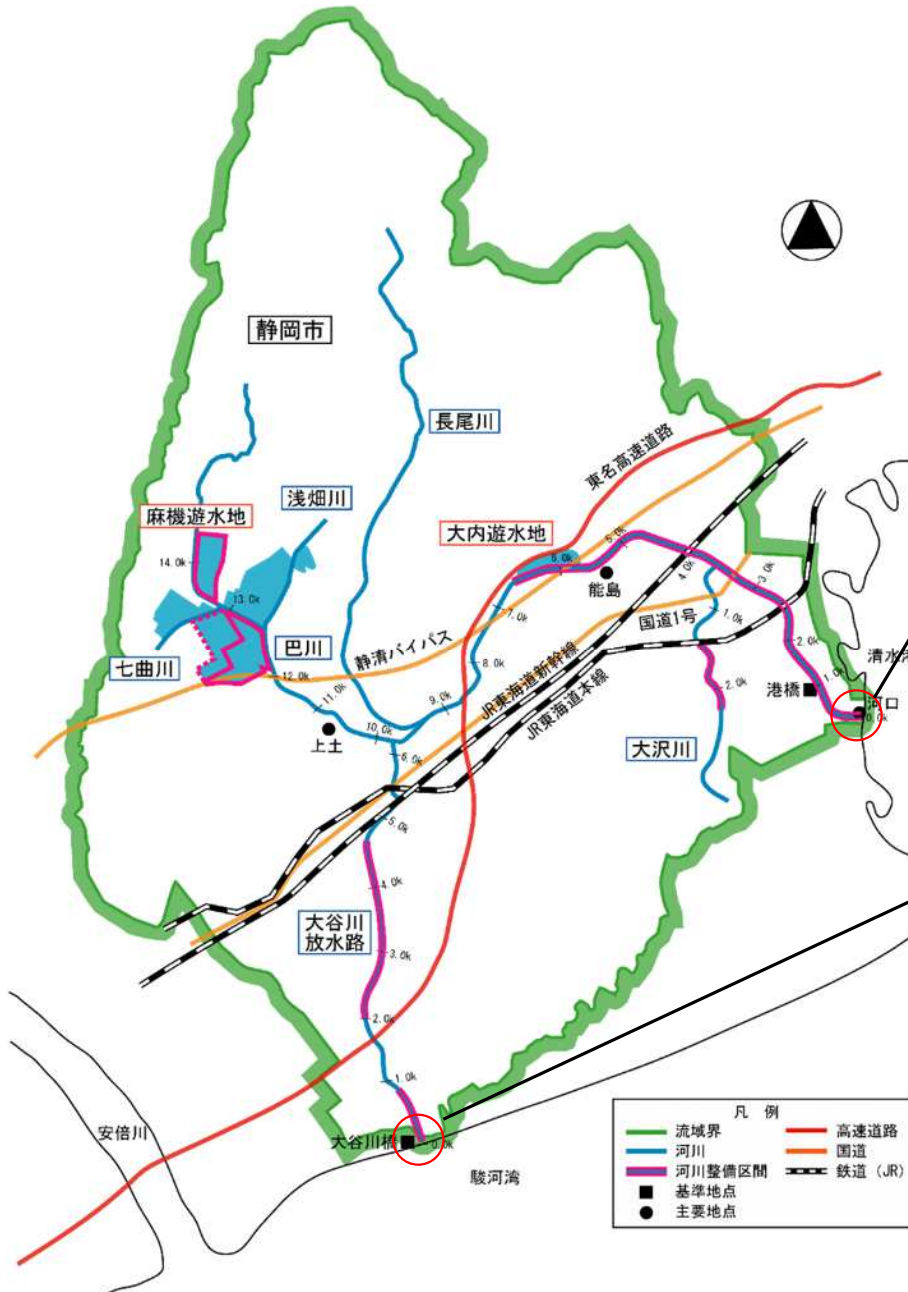
[illegible]

27

河川整備計画策定時点からの事業進捗状況



津波対策施設の整備状況



巴川河口部では、令和 7 年度に津波対策水門設置に向けた予備設計業務に着手している。
大谷川水門では、令和 6 年度から水門嵩上工事に着手しており令和 9 年度末に完成予定となっている。

(二) 巴川 津波対策水門の整備に向けた取り組み状況



工事着手までに必要な作業

予備設計

測量

関係機関・企業等の調整

地質調査

詳細設計

用地調査

支障物移転

工事着手

現在の作業状況

令和 6 年度

●現状把握及び課題整理

- ・ 河口周辺の測量
- ・ 課題整理・支障物等の確認

令和 7 ～ 8 年度

●関係機関との協議・調整

- ・ 静岡市下水処理場
- ・ 海上保安庁巡視船「おきつ」
- ・ 上屋利用組合等物流業者
- ・ その他船舶等

●予備設計の実施

- ・ 水門形式
- ・ 仮排水路の規模
- ・ 施工ヤードの範囲
- ・ 航路の確保

(二) 巴川 津波対策水門の整備に向けた調整



・関係者に影響等を聞き取り、水門位置・形式を検討している

水門に合わせて改修が必要

大規模な仮排水路

関係機関・企業との調整・移設

マリーナ利用船舶

水マリーナ

作業船・漁船の係留

羽衣橋への影響

護岸改修（両岸）

湾岸警備保障

(株)天野回漕店
定温倉庫1・2号

①羽衣橋側案

②河口側案

民間倉庫・臨港道路

クルーズ船接岸

巡視船「おきつ」

下水道放流渠

品株式会社清水
(KOCHAN)

伊藤鐵工所 静岡
支店(保守サービス)

伊藤鐵工所

静岡市岸壁

文 東海大学 望

静清浄化センター

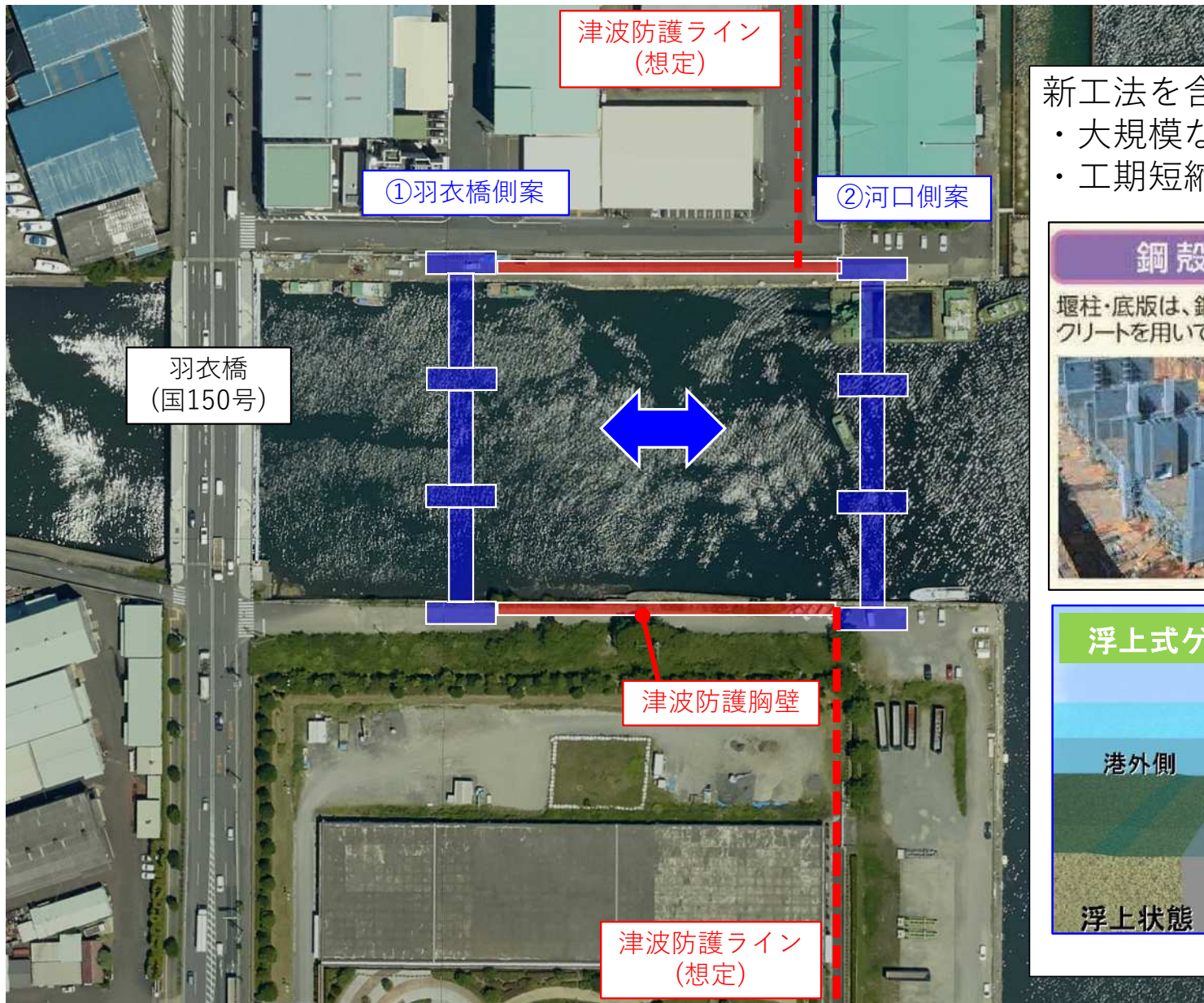
大規模な仮排水路

東海大学「望星丸」

巴川津波対策水門の設置位置案



・事業費、施工性、周辺への影響などの条件から工法、位置を決定(令和9年3月まで)



新工法を含めた検討

- ・大規模な仮締切が不要
- ・工期短縮が可能

鋼殻構造

堰柱・底版は、鋼板と鉄筋とコンクリートを用いて造る「鋼殻構造」



沈埋工法

- 大規模な仮締切不要
- 現場作業が少なく済む
- 藤前干潟への負荷軽減

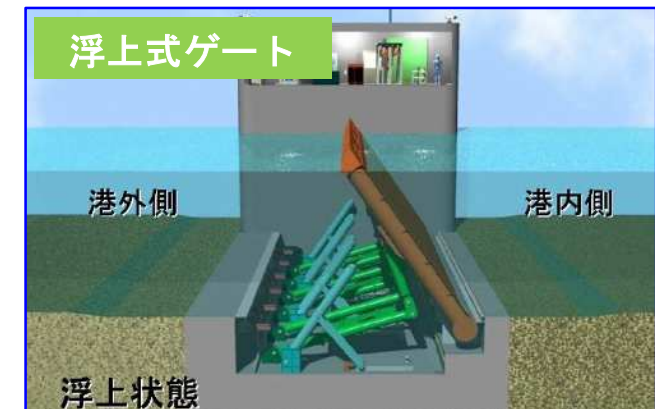


浮上式ゲート

港外側

港内側

浮上状態



河川整備計画策定時点からの事業進捗状況



令和4年台風第15号による被害を踏まえた緊急対策（浸水重点事業の採択）

令和4年台風第15号による甚大な浸水被害を受け、令和5年度から国の「浸水対策重点地域緊急事業」の採択を受け、県市において、麻機遊水地第2工区の整備や巴川本川の河道掘削、雨水貯留施設等の整備を進めている。

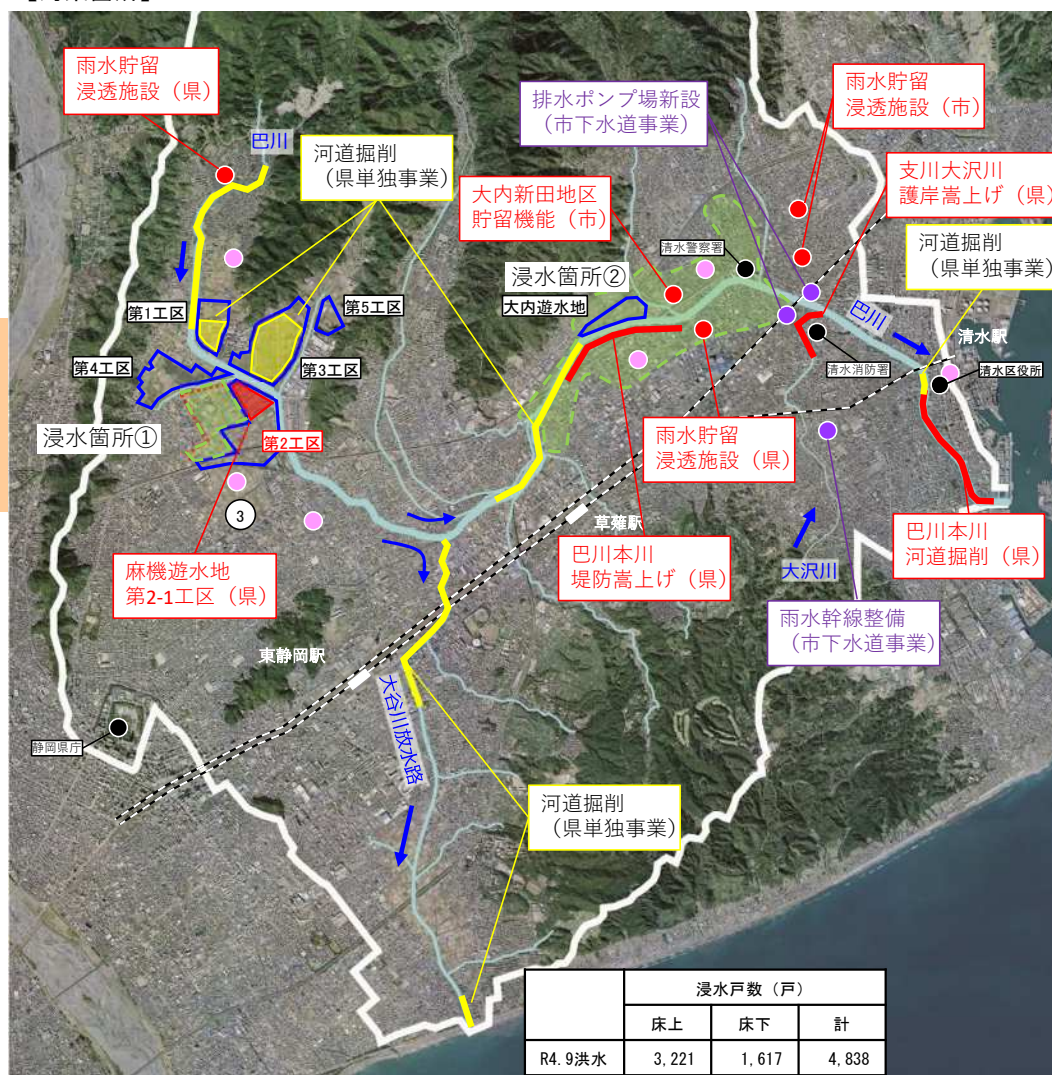


【全体計画】
 河川名：二級巴川水系
 事業内容：麻機遊水地第2工区、河道掘削、堤防嵩上、貯留浸透施設
 全体事業費：約9.7億円
 事業期間：R5～R9
 施工地：静岡市

凡例

- 浸水対策重点地域緊急対策
- 下水道事業
- 県単独事業
- - - 報奨金（主に遊水地域）
- 要配慮者利用施設
- 官公庁舎

【対策箇所】



※ 各対策は、今後実施する詳細な調査や検討等の結果により、変更する可能性がある。





- 基本理念は現行計画と同様とする。
- 計画対象区間も現行計画と同様に19河川を対象とする。
- 対象期間は追加する対策の期間を考慮し、令和9年度時点から概ね20年間に変更する。

河川整備の基本理念

- ◆ 安心して暮らせる川づくり
- ◆ 魚はね緑うつす川づくり
- ◆ 地域の歴史と水辺文化を育む川づくり

計画対象区間

- ◆ 本河川整備計画は、巴川水系19河川の県及び市の管理区間を計画対象とする。（県管理18河川、市管理1河川）

計画対象期間

- ◆ 本河川整備計画は、「巴川水系河川整備基本方針」に基づいた河川整備の当面の目標であり、その対象期間は、令和9年度時点から概ね20年間とする。

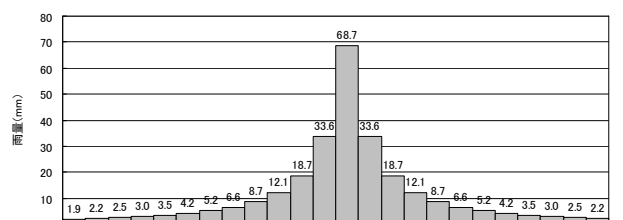
巴川の整備の方向性

- ◆ 令和4年9月洪水により巴川流域では甚大な被害が発生。一方、同洪水を河川整備計画の目標とした場合、対策規模が大きくなりすぎ、期間や事業費も莫大となることが予想される。
- ◆ 現在、平成26年10月洪水を受けて、令和3年に変更した河川整備計画で位置づけた巴川下流部の河道改修を進めているが、市街地の影響もあり、改修に期間を要する状況である。
- ◆ 気候変動を踏まえて目標規模を見直すことを考えられるが、上記の状況を踏まえて令和3年の整備計画変更の考え方と同様に、以下を想定する。

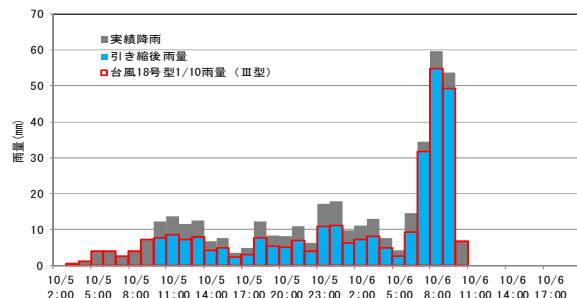
降雨波形の設定

- 目標規模は引き続き1/10とする。
- 令和4年9月洪水を1/10規模に引き縮めた波形で流出計算を行い、各地点において現行河川整備計画の流量と比較して、流量が上回る地点について対応を検討する。

現行計画で採用している2つの降雨波形



(中央集中波形 1/10モデルハイエト)

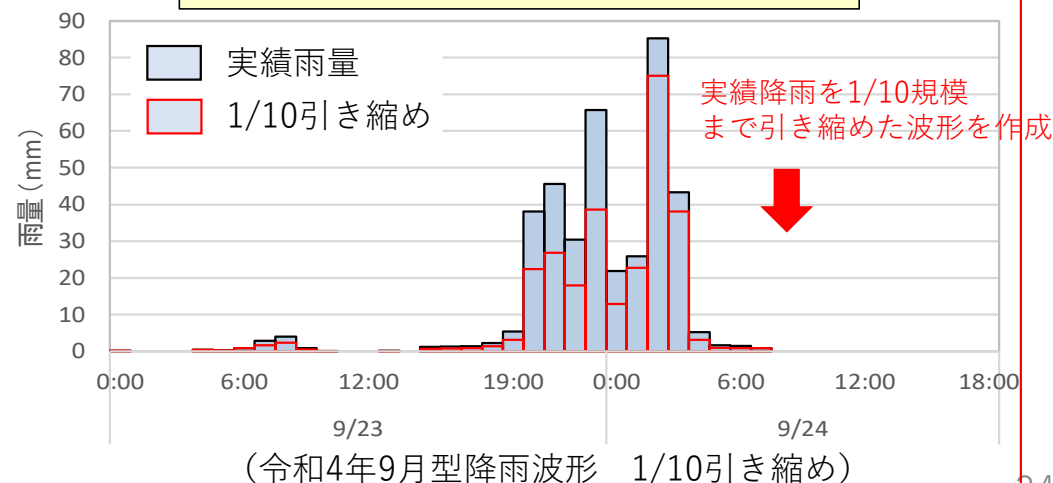


(平成26年10月型降雨波形 1/10引き縮め)



確率規模	3時間雨量	24時間雨量
1/10	135.9mm	271.2mm

整備計画の変更で新たに追加する降雨波形



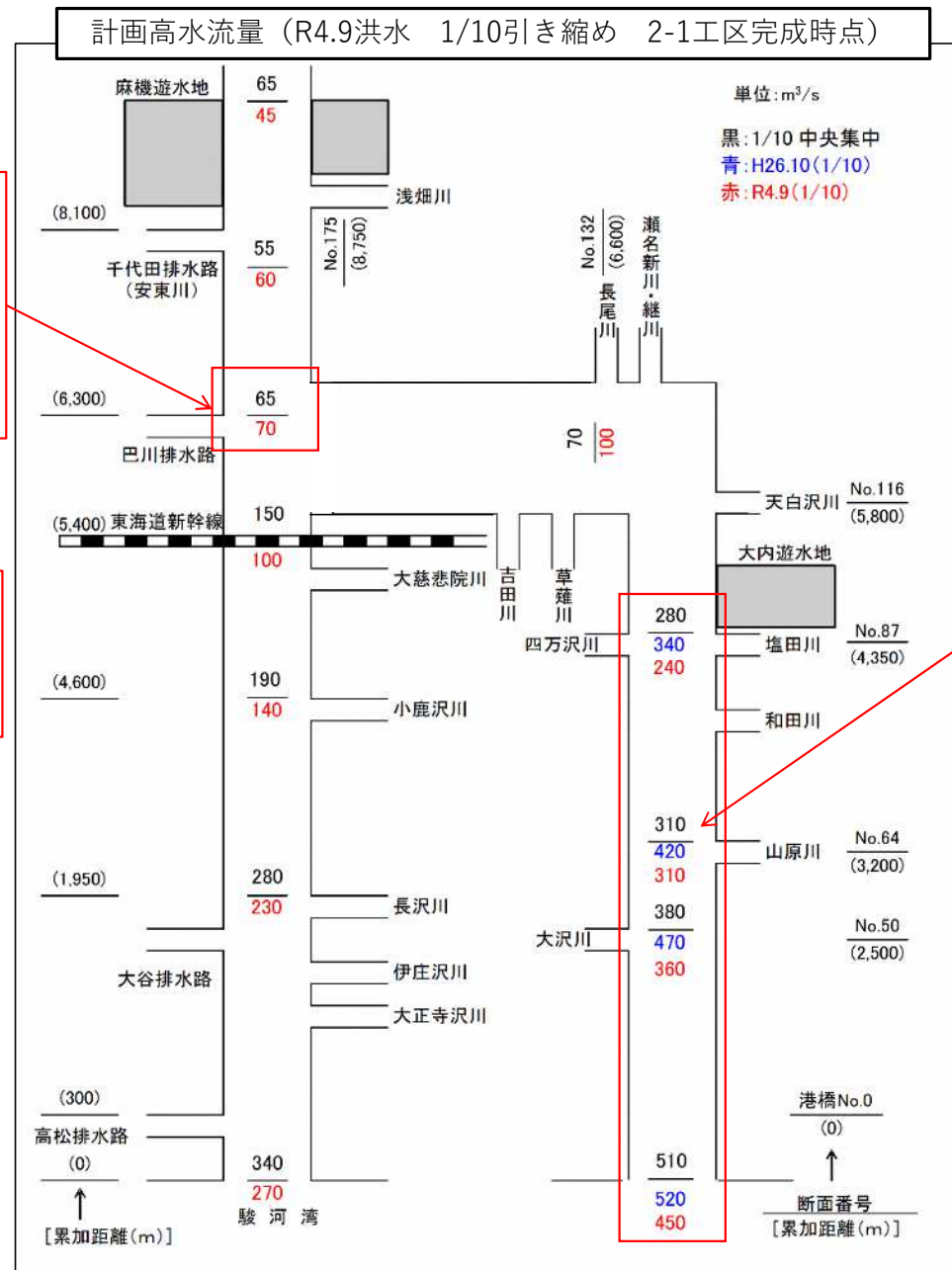
(令和4年9月型降雨波形 1/10引き縮め)

◆ 上土地点で河川整備基本方針流量以上の流量となる。一方下流ではH26型洪水流量が大きい。

これまで計画していた対策
だけでは、上土地点に流れ
込む流量が基本方針流量
(65m³/s) 以上の70m³/s
となる。



上土地点より上流でさらに洪水をためる場所が必要となる。



巴川下流域において、
H26型洪水流量（青）が
大きい



引き続き、現行計画（河道掘削）を推進する。

整備内容（巴川上流）



麻機遊水地第2工区について（麻機遊水地をさらに広げて洪水をためる整備計画に変更）

- ◆ 令和3年に変更した河川整備計画では、麻機遊水地第2工区全域を整備するのではなく、1/10計画流量を満足する容量を検討し、加藤島・豊地・立石・安東川エリア（計51ha）の整備を位置づけた。（この範囲を麻機遊水地第2-1工区と呼ぶ）
- ◆ 今回、令和4年台風第15号降雨（1/10）降雨波形を追加して検討した結果、2-1工区だけでは容量が不足し、麻機遊水地下流の上土地点の流量が将来計画（基本方針）流量以上となるため、麻機遊水地にて新たなエリアを拡大することでさらなる貯留量を確保し下流への負荷を軽減する。なお、洪水調節機能の確保については、既設の遊水地の改築等を含めて調査・検討する。

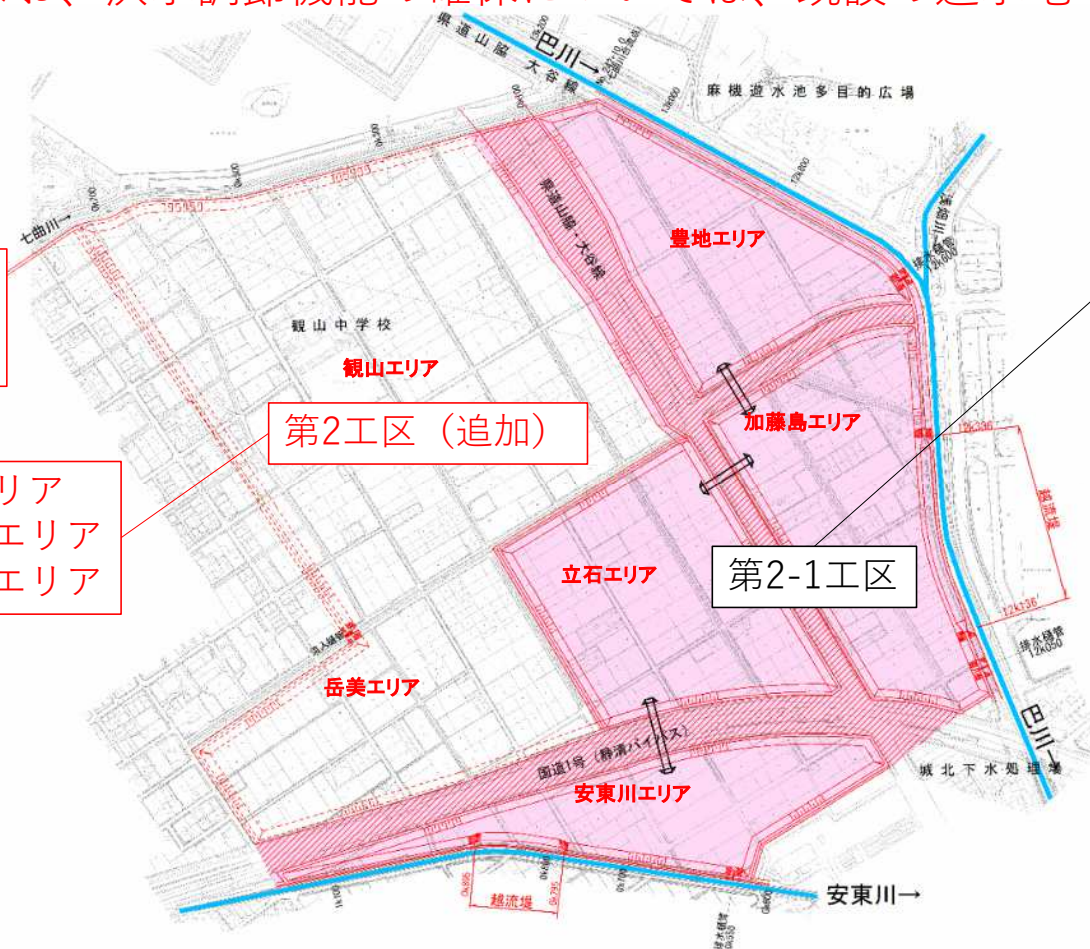
必要貯留量
=51万m³以上

追加エリア
・ 観山エリア
・ 岳美エリア

第2工区（追加）

第2-1工区

第2-1工区（51ha）
加藤島エリア
豊地エリア
立石エリア
安東川エリア



整備内容（巴川上流）麻機遊水地 新たな追加エリアの比較



将来整備との整合性や経済性を比較した結果、
将来的に手戻り工事が不要となる「案2」を採用する方向で引き続き検討。

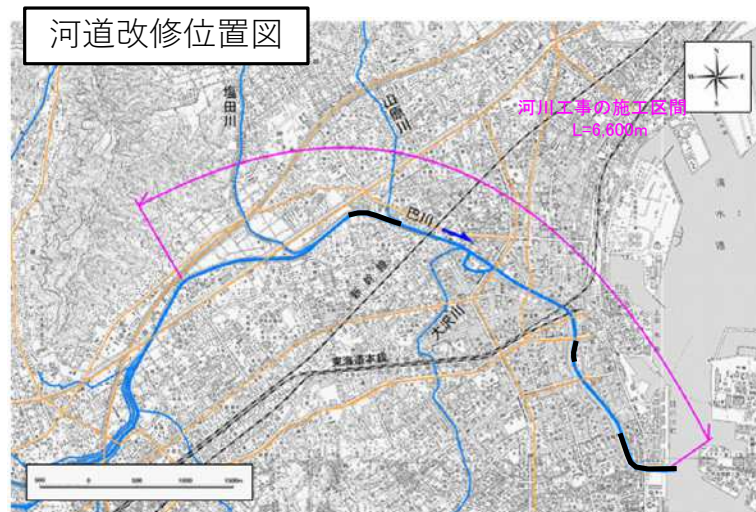
項目	案 1	案 2
概略図	※今後の検討により、範囲が変更になる可能性があります。	※今後の検討により、範囲が変更になる可能性があります。
主な工事内容	連通管 :2箇所 (将来計画と同一) 斜川の流入口:1箇所 (将来的に再整備が必要) 周囲堤延長 :2,834m (将来的に一部再整備が必要)	連通管 :3箇所 (将来計画と同一) 斜川の流入口:1箇所 (将来計画と同一) 周囲堤延長 :4,031m (将来計画と同一)
将来計画との整合	斜川からの流入口の再整備や、周囲堤の撤去・再設置など、将来計画における手戻りが生じる。	将来計画における手戻りが生じない。
経済性	案 2 と比べ概算事業費は安価であるが、将来的な手戻りが多く、将来的な工事費を含めると高価となる。	案 1 と比べて概算事業費は高価であるが、将来的な手戻りが無い。
確保容量	必要貯留量を満足。 ※更なる貯留量確保には、エリアの再設定が必要となる。	必要貯留量を満足。 ※貯留量については、令和 4 年台風第15号などの超過洪水を踏まえ、引き続き検討を行っていく。
評価		◎

整備内容（巴川下流）

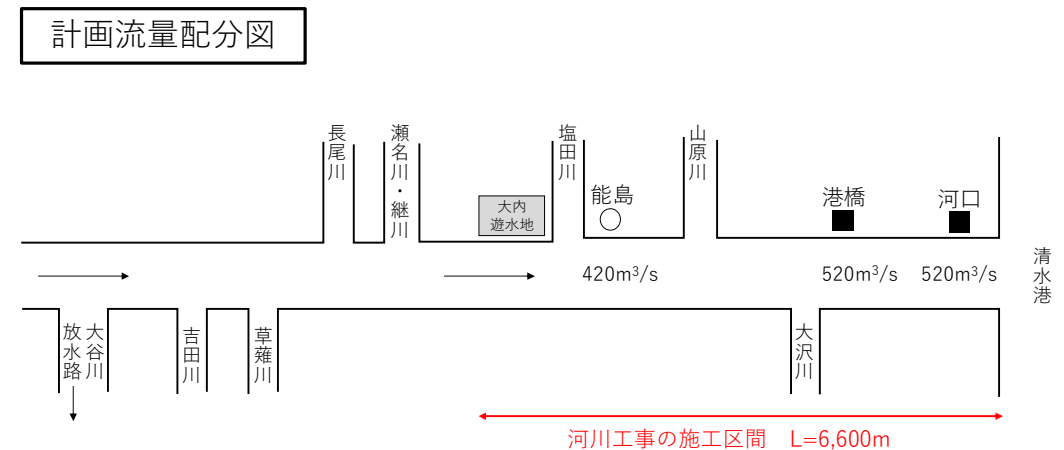


巴川本川の河道改修について

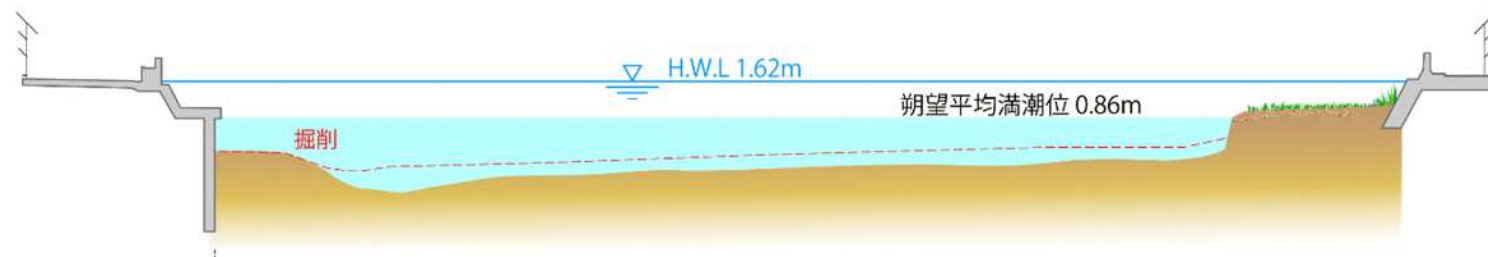
- ◆ 流出計算の結果、巴川下流部において令和4年9月洪水流量は平成26年10月洪水流量を下回ることがわかった。一方、平成26年10月洪水の場合、現況河道では水位がHWLを上回り、床上浸水が発生する。
- ◆ このことから現行河川整備計画に位置付けた河口から6.6km区間の河道掘削を継続する。
- ◆ 事業実施後においても環境の状況を継続的に把握し、必要に応じて保全対策等を見直すなど、順応的な管理に努める。



掘削済



改修横断イメージ図



新たな整備の実施による令和4年台風第15号の被害軽減効果



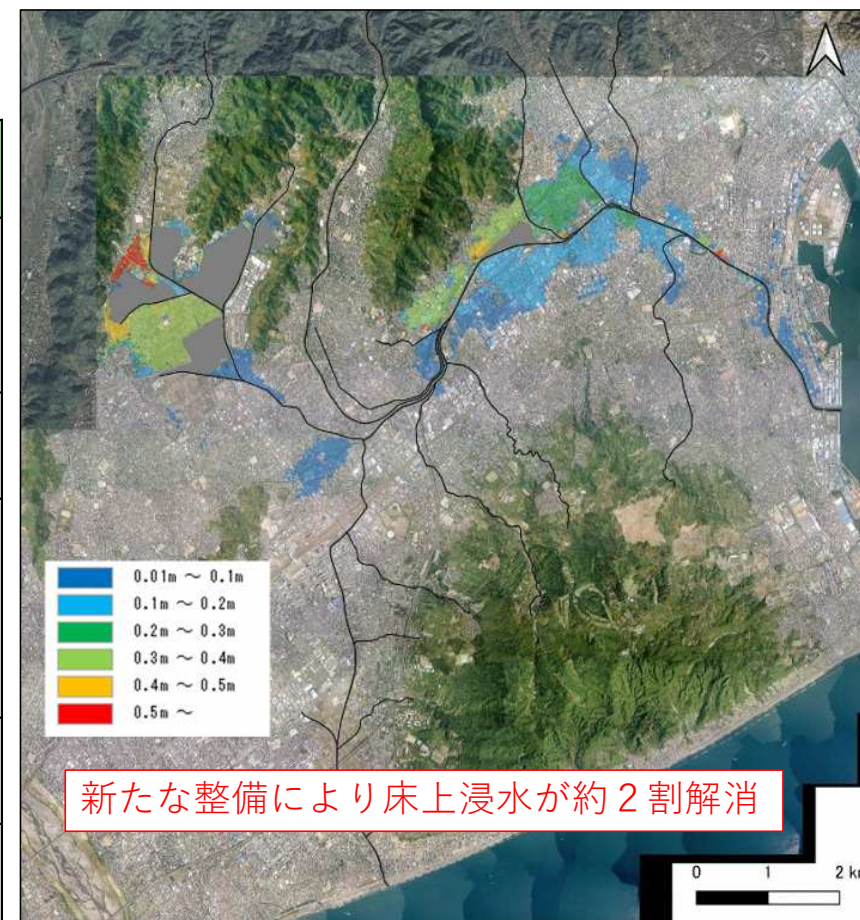
新たな整備メニューと対策効果

- ◆ 新たに位置づけた麻機遊水地第2-2工区を含む変更河川整備計画全体の対策により、令和4年9月洪水に対して床上浸水が約2割軽減できる見込みである。

河川名・遊水地名	整備区間等	面積・延長等	主な工種	現在の実施状況
麻機遊水地	第1工区 巴川13.4～14.3k 第2工区 巴川12.0～13.1k	第1工区 22ha 第2工区 86ha	築堤 掘削 越流堤	第1工区完了 第2-1工区整備中 (R7末に供用開始)
巴川	0.0～6.6k (河口～矢崎川合流点)	6,600m	掘削 護岸工	整備中
大谷川放水路	0.0～0.75k (河口～水上1号橋下流) 2.1～4.35k (片山1号橋上流～池田堰橋上流)	750m 2,250m	護床工	概成
大沢川	1.62～2.57k (JR東海道本線～船越橋)	950m	掘削 護岸工	検討中
雨水貯留浸透施設	流域内の公共公益施設	約16万m ³		整備中
津波対策水門	巴川河口	—	水門設置	整備中
	大谷川放水路河口	—	水門改良(嵩上)	整備中

※赤字は新たに追加する対策

令和4年9月洪水に対する整備前後の最大浸水深差分



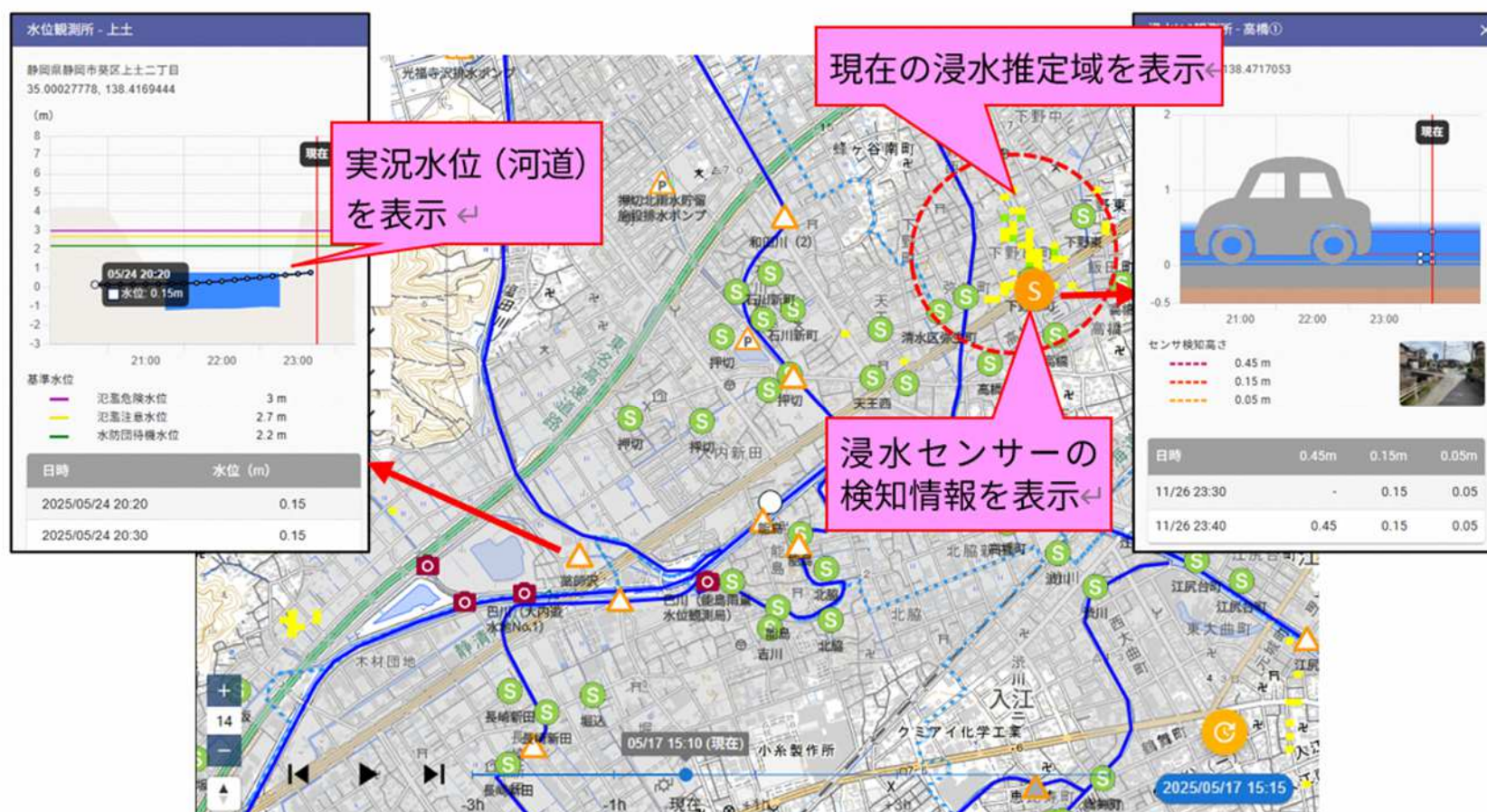
新たな整備により床上浸水が約2割解消

被害軽減効果（令和4年9月洪水）

項目	浸水面積			浸水戸数		
	床下浸水 (ha)	床上浸水 (ha)	合計 (ha)	床下浸水 (戸数)	床上浸水 (戸数)	合計 (戸数)
現況	969	458	1,427	23,765	7,382	31,147
整備後	980	376	1,355	23,916	6,143	30,059
差分	-11	83	72	-151	1,239	1,088
減少率	-1%	18%	—	-1%	17%	—

巴川 浸水情報システム

- ◆ 静岡市は、降雨・河川水位・浸水センサー情報を活用し、現時刻の浸水範囲を10分ごとに推定・公表する「巴川浸水情報システム」を導入した。流域から河川、下水道、市街地の氾濫までを統合解析することで、外水・内水を含む高精度な浸水情報を提供する。
- ◆ 地方公共団体によるリアルタイム浸水範囲の公表は全国初の取り組みであり、6時間先までの浸水予測を活用した避難判断支援にも活用していく。





以上の検討結果から、整備計画の変更メニューは以下の項目とする。

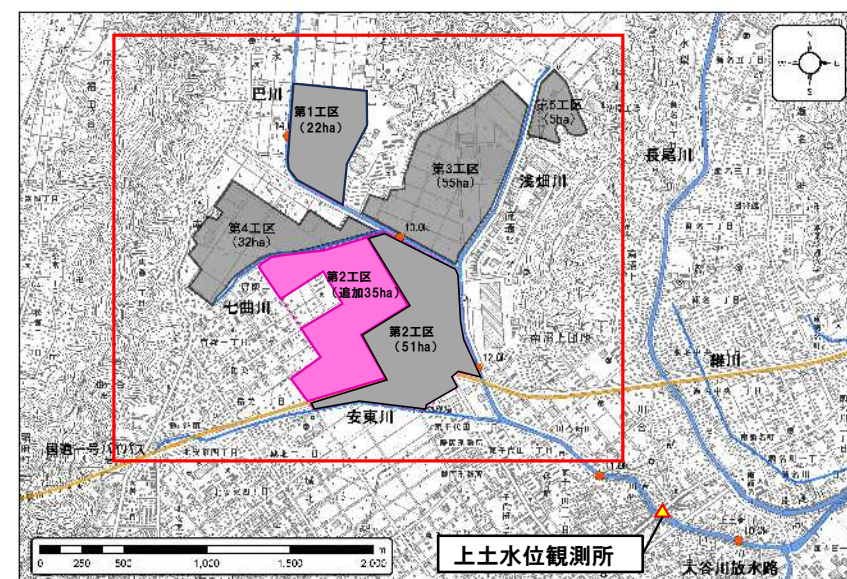
項目	現状、課題		対応方針	整備計画原案
①治水対策関連	遊水地の整備	➤現行の河川整備計画では、年超過確率1/10規模の降雨による洪水を安全に流下させるための河川整備（遊水地整備等）を進めている。 ➤しかし、令和4年9月台風第15号は、現計画の計画規模や甚大な浸水被害となった平成26年10月台風18号を上回り巴川の水位がピークに達する前に、遊水地が満水となってしまう、洪水調節機能の限界を超えるなどの課題が発生した。	令和4年9月台風15号を考慮し、巴川本川の水位低下のため ・ 麻機遊水地の新たなエリアを位置づける。なお、洪水調節機能の確保については、既設の遊水地の改築等を含めて調査・検討する。	P114～P118
②ソフト対策		➤令和4年9月台風第15号を受けて、豪雨時の判断支援情報等の充実が必要となった。	・ 巴川浸水情報システムの運用	P140

河川工事（変更原案比較表P113 他）

- ◆ 令和4年9月の台風第15号による甚大な被害を踏まえ、令和4年9月台風第15号の降雨波形を1/10規模まで引き縮めた降雨波形を対象降雨に追加するとともに、巴川本川の水位低下のため、麻機遊水地に新たなエリアの整備を位置づける。
- ◆ 河川整備にあたっては、事業実施後においても環境の状況を継続的に把握した上で、必要に応じて保全対策等を見直すなど、順応的な管理に努める。
- ◆ 津波対策水門の整備にあたっては、希少種の生息域などの自然環境に配慮するとともに、日本三大美港である清水港の景観との調和に努める。



令和4年台風15号による浸水被害（麻機遊水地）



麻機遊水地の新たな整備

河川の維持（変更原案比較表P131 他）

- ◆ 災害の発生防止、河川の適正な利用、流水の正常な機能の維持及び河川環境の整備と保全の観点から、治水機能の確保のほか、河川のもつ多面的機能が十分に発揮されるよう努める。
- ◆ 治水上の支障となる堆積土砂の排除や河道内植生の除去にあたっては、地域住民や学識者などとの連携により、瀬や淵、**干潟環境**、河床の浮き石など動植物の生育・生息環境に配慮する。
- ◆ 動植物の生息環境の保持、改善のため、河道内の植物や植林の伐採にあたっては必要な調査を実施し、動植物の生息空間の多様性と連続性の保全及び復元に配慮し、瀬や淵、**干潟環境**の保全、河床の多様性の確保、創出に努める。



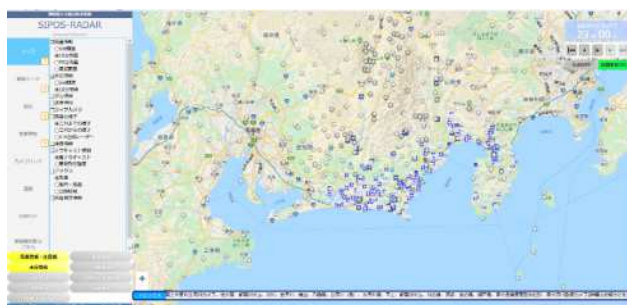
河川環境の整備と保全（変更原案比較表P135 他）

- ◆ 流域の河川環境は、山地部、平地部、河口部を含む低平地部のそれぞれの地形や土地及び河川特性に依存している。このため、この自然環境を、行政、地域住民が巴川らしさとして共通の認識を持ち、まちづくりにおける快適環境の軸として捉えられるよう、地域住民、学識者などと連携・協議しながら、各地形の特性に応じた河川環境を保全し、河川の上下流及び周辺との連続性に配慮し、多様性の復元や単一化した水辺の改善を図るよう努める。
- ◆ 河川環境への影響が懸念される河川維持工事の実施にあたっては、有識者との綿密な連携を図り、モニタリング調査と整備内容の検証による順応的管理手法を実施するとともに、その後の河川整備や維持管理に反映されるよう情報の蓄積を図る。

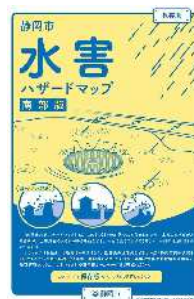


総合的な被害軽減対策（変更原案比較表P137～P140）

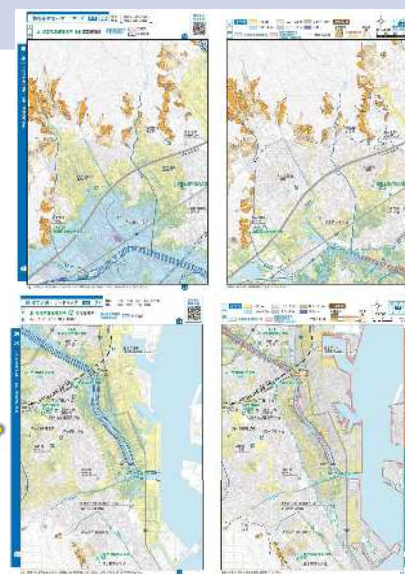
- ◆ 巴川流域では、昭和53年の総合治水対策特定河川の指定を受け、流域が一体となった治水安全度の向上策に取り組んできており、引き続き、県と市の関係部局で構成される「巴川流域総合治水対策協議会」で諸計画や事業の連携・調整、情報共有を図っていく。
- ◆ 立地適正化計画の防災指針等との整合を図りながら、水災害リスクを踏まえた安全・安心なまちづくりを推進する。
- ◆ 巴川流域水害対策計画、巴川水系流域治水プロジェクト（巴川水災害対策プラン）との整合を図りながら、流域の治水安全度向上策に関わる施工者、官民の責任の明確化などにより総合的な治水対策の一層の推進を図る。
- ◆ 甚大な被害をもたらした昭和49年の七夕豪雨から50年以上が経過し、被災体験の風化や防災意識の低下が危惧されるため、洪水被害に関わる浸水実績の公表に努めるほか、流域の地形的な特徴などの防災に関わる情報の提供、流域における水害に対する防災教育の支援を行う。
- ◆ また、静岡市は降雨・河川水位・浸水センサー情報を活用し、現時刻の浸水範囲を10分ごとに推定・公表する「巴川浸水情報システム」を導入した。流域から河川、下水道、市街地の氾濫までを統合解析することで、外水・内水を含む高精度な浸水情報を提供する。地方公共団体によるリアルタイム浸水範囲の公表は全国初の取り組みであり、6時間先までの浸水予測を活用した避難判断支援にも活用していく。



静岡県サイボスレーダー



静岡市洪水ハザードマップ



七夕豪雨、R4台風第15号による洪水痕跡水位



(4) 今後のスケジュール



次回の流域委員会では、河川整備計画（変更）案について議題とする予定です。

河川整備計画（変更）策定

1. 流域及び河川の概要
2. 現行河川整備計画の概要
3. 社会情勢等の変化と課題及び対応方針

河川整備計画（変更）（原案）

【（原案）の公表・県民意見の募集】
（静岡県情報提供の推進に関する要綱による手続き）

河川整備計画（変更）（案）

流域委員会（予定）

第1回（設立・概要）
（課題抽出・対応方針）

意見

第2回（目標・対策）
（整備メニュー・原案）

意見

第3回（案の策定）

意見